

新専門医制度 内科領域 プログラム

福井大学

内科専門研修プログラム……P.1	内科専
攻研修マニュアル……P.15	研修プログラム指
導医マニュアル……P.20	内科基本コー
ス……P.22	Subspecialty 重点コー
ス……P.22	

文中に記載されている資料『専門研修プログラム整備基準』『研修カリキュラム項目表』『研修手帳（疾患群項目表）』『技術技能評価手帳』は、日本内科学会 Web サイトにてご参照ください。

福井大学内科専門研修プログラム

目次

1. 福井大学内科専門研修プログラムの概要（理念・使命・特性）
2. 内科専門研修はどのように行われるのか
3. 専攻医の到達目標（修得すべき知識・技能・態度など）
4. 各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得
5. 学問的姿勢
6. 医師に必要な倫理性，社会性
7. 施設群による研修プログラムおよび地域医療についての考え方
8. 年次毎の研修計画
9. 専門研修の評価
10. 専門研修プログラム管理委員会
11. 専攻医の就業環境（労働管理）
12. 専門研修プログラムの改善方法
13. 修了判定
14. 専攻医が専門研修プログラムの修了に向けて行うべきこと
15. 研修プログラムの施設群
16. 専攻医の受け入れ数
17. Subspecialty 領域
18. 研修の休止・中断，プログラム移動，プログラム外研修の条件
19. 専門研修指導医
20. 専門研修実績記録システム，マニュアル等
21. 研修に対するサイトビジット（訪問調査）
22. 専攻医の採用と修了

1. 理念・使命・特性

理念【整備基準 1】

1) 本プログラムは、福井県の国立大学である福井大学医学部附属病院（以下、福井大学病院）を基幹施設として、福井県医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を経て福井県近隣医療圏の医療事情を理解し、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練され、内科専門医としての基本的臨床能力獲得後はさらに高度な総合内科の Generality を獲得する場合や内科領域 Subspecialty 専門医への道を歩む場合を想定して、複数のコース別に研修を行って内科専門医を育成します。

2) 初期臨床研修を修了した内科専攻医は、本プログラム専門研修施設群での3年間（基幹施設1年間以上＋連携施設1年間以上）に、豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で、内科専門医制度[研修カリキュラム](#)に定められた内科領域全般にわたる研修を通じて、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します。

内科領域全般の診療能力とは、臓器別の内科系 Subspecialty 分野の専門医にも共通して求められる基礎的な診療能力を指します。また、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると同時に、医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養をも修得して可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践する先導者の持つ能力です。

使命【整備基準 2】

1) 内科専門医として、(1) 高い倫理観を持ち、(2) 最新の標準的医療を実践し、(3) 安全な医療を心がけ、(4) プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を提供し、臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営できる研修を行います。

2) 本プログラムを修了し内科専門医の認定を受けた後も、内科専門医は常に自己研鑽を続け、最新の情報を学び、新しい技術を修得し、標準的な医療を安全に提供し、疾病の予防、早期発見、早期治療に努め、自らの診療能力をより高めることを通じて内科医療全体の水準をも高めて、地域住民、日本国民を生涯にわたって最善の医療を提供してサポートできる研修を行います。

3) 疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行います。

4) 将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち臨床研究、基礎研究を実際に行う契機となる研修を行います。

特性

1) 本プログラムは、福井県の福井大学病院を基幹施設として、福井県医療圏・近隣医療圏をプログラムの守備範囲とし、必要に応じた可塑性のある、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます。研修期間は3年間（基幹施設1年間以上＋連携施設1年間以上）です。

2) 本研修プログラムでは、症例のある時点で経験するということだけではなく、主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。そして、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします。

3) 基幹施設および連携施設での2年間（専攻医2年修了時）で、「[研修手帳（疾患群項目表）](#)」に定められた70疾患群のうち、少なくとも通算で45疾患群、120症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録できます。そして、専攻医2年修了時点で、指導医による形成的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる29症例の病歴要約を作成できます。

4) 連携病院が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために、原則として1年間、立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって、内科専門医に求められる役割を実践します。

5) 専攻医3年修了時で、「[研修手帳（疾患群項目表）](#)」に定められた70疾患群のうち、少なくとも通算で56疾患群、160症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録できる体制とします。そして可能な限り、「[研修手帳（疾患群項目表）](#)」に定められた70疾患群、200症例以上の経験を目標とします。

専門研修後の成果【整備基準 3】

- 1) 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）：地域において常に患者と接し，内科慢性疾患に対して，生活指導まで視野に入れた良質な健康管理・予防医学と日常診療を実践します。
- 2) 内科系救急医療の専門医：内科系急性・救急疾患に対してトリアージを含めた適切な対応が可能な，地域での内科系救急医療を実践します。
- 3) 病院での総合内科（Generality）の専門医：病院での内科系診療で，内科系の全領域に広い知識・洞察力を持ち，総合内科医療を実践します。
- 4) 総合内科的視点を持った Subspecialist：病院での内科系の Subspecialty を受け持つ中で，総合内科（Generalist）の視点から，内科系 subspecialist として診療を実践します。

本プログラムでは福井大学病院を基幹病院として，多くの連携施設と病院群を形成しています。複数の施設での経験を積むことにより，様々な環境に対応できる内科専門医が育成される体制を整えています。

2. 内科専門研修はどのように行われるのか [整備基準：13 ～ 16, 30]

- 1) 研修段階の定義：内科専門医は2年間の初期臨床研修後に設けられた専門研修（専攻医研修）3年間の研修で育成されます。

- 2) 専門研修の3年間は、それぞれ医師に求められる基本的診療能力・態度・資質と日本内科学会が定める「[内科専門研修カリキュラム](#)」(別添)にもとづいて内科専門医に求められる知識・技能の修得目標を設定し、基本科目修了の終わりに達成度を評価します。具体的な評価方法は後の項目で示します。
- 3) 臨床現場での学習：日本内科学会では内科領域を70疾患群(経験すべき病態等を含む)に分類し、代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載することを定めています。日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)への登録と指導医の評価と承認とによって目標達成までの段階をup to dateに明示することとします。各年次の到達目標は以下の基準を目安とします。

○専門研修1年

- ・症例：カリキュラムに定める70疾患群のうち、20疾患群以上を経験し、専攻医登録評価システムに登録することを目標とします。
- ・技能：疾患の診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医とともに行うことができるようにします。
- ・態度：専攻医自身の自己評価、指導医とメディカルスタッフによる360度評価を複数回行って態度の評価を行い担当指導医がフィードバックを行います。

○専門研修2年

- ・疾患：カリキュラムに定める70疾患群のうち、通算で45疾患群以上を(できるだけ均等に)経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)に登録することを目標とします。
- ・技能：疾患の診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医の監督下で行うことができるようにします。
- ・態度：専攻医自身の自己評価、指導医とメディカルスタッフによる360度評価を複数回行って態度の評価を行います。専門研修1年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。

○専門研修3年

- ・疾患：主担当医として、カリキュラムに定める全70疾患群、計200症例の経験を目標とします。但し、修了要件はカリキュラムに定める56疾患群、そして160症例以上(外来症例は1割まで含むことができる)とします。この経験症例内容を専攻医登録評価システムへ登録します。既に登録を終えた病歴要約は、日本内科学会病歴要約評価ボード(仮称)による査読を受けます。
- ・技能：内科領域全般について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を自立して行うことができるようにします。
- ・態度：専攻医自身の自己評価、指導医とメディカルスタッフによる360度評価を複数回行って態度の評価を行います。専門研修2年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。また、基本領域専門医としてふさわしい態度、プロフェッショナリズム、自己学習能力を修得しているか否かを指導医が専攻医と面談し、さらなる改善を図ります。

< 内科研修プログラムの週間スケジュール >

内科学（１）＜血液・腫瘍内科；感染症・膠原病内科＞

	月	火	水	木	金
午前	病棟診療	入退院カンファレンス 教授回診 教室会	病棟診療	病棟診療	病棟診療
午後	病棟診療	研究セミナー	病棟診療	血液・腫瘍内科 膠原病・感染症内科 カンファレンス	病棟診療

内科学（２）＜消化器内科；脳神経内科＞

	月	火	水	木	金
午前	消化器・神経カンファレンス 外来診療 内視鏡検査 超音波検査（腹部）	消化器・神経カンファレンス 外来診療 内視鏡検査 超音波検査（腹部）	消化器・神経カンファレンス 外来診療 内視鏡検査 超音波検査（腹部）	新患カンファレンス 教授回診 抄読会 内視鏡検査	消化器・神経カンファレンス 外来診療 内視鏡検査 超音波検査（腹部）
午後	大腸内視鏡検査 E R C P 内視鏡的治療	大腸内視鏡検査 E R C P 内視鏡的治療 筋電図検査 神経伝導検査 誘発電位検査 超音波検査（血管）	大腸内視鏡検査 E R C P 内視鏡的治療	大腸内視鏡検査 E R C P 内視鏡的治療 筋電図検査 神経伝導検査 誘発電位検査 超音波検査（血管）	大腸内視鏡検査 E R C P 内視鏡的治療
	消化器カンファレンス	症例検討会 医局会	神経カンファレンス リハビリカンファレンス	認知症カンファレンス （第２・第４週のみ）	消化器画像カンファレンス

内科学（３）＜呼吸器内科；内分泌・代謝内科＞

	月	火	水	木	金
午前	病棟診療 外来診療 ホルモン負荷試験	病棟診療 外来診療	病棟診療 外来診療 ホルモン負荷試験	病棟診療 外来診療 甲状腺超音波検査	病棟診療 外来診療
午後	人工呼吸サポート 回診（RST） 気管支鏡他各種検査 糖尿病教室	科長回診（呼吸器） 気管支鏡他各種検査 糖尿病教室	気管支鏡他各種検査	気管支鏡他各種検査	気管支鏡他各種検査 気管支鏡検査検討会
	呼吸器内科・外科合同 カンファレンス	内分泌・代謝 カンファレンス （回診）	呼吸器内科カンファレンス・ （回診）	内内抄読会	医局会

循環器内科

	月	火	水	木	金
午 前	心臓カテーテル検査 病棟業務	心臓カテーテル検査	症例カンファレンス 教授回診 アブレーション・ 心臓カテーテル検査	アブレーション	心臓カテーテル検査 病棟業務
午 後	心臓カテーテル検査 病棟業務	心臓カテーテル検査 ペースメーカー 病棟業務	アブレーション ペースメーカー 病棟業務	アブレーション ペースメーカー 病棟業務	心臓カテーテル検査 病棟業務
	カンファレンス 医局会 抄読会				

腎臓内科

	月	火	水	木	金
午 前	病棟 腎臓外来 血液透析外来	病棟 腎臓外来 血液透析外来	病棟 腎臓外来 腹膜透析外来	病棟 腎臓外来 腹膜透析外来	病棟 腎臓外来 血液透析外来
午 後	病棟 アフターサービス	腎生検カンファレンス 症例カンファレンス 教授回診 医局会 抄読会	腎生検検査 病棟	腎生検検査 病棟	病棟 アフターサービス

総合診療部・救急部

	月	火	水	木	金	土	日
8:00	申し送り						
	救急 カンファレンス	総合診療外来			ER 業務		
	臨床業務						
12:00							
14:00	外来振り返り					休日 体制	休日 体制
	カンファレンス	臨床業務 (病棟等)	臨床業務 (病棟等)	臨床業務 (病棟等)			
	臨床業務 (病棟)		TV カンファレンス	研修医勉強会			
17:00							

	申し送り
--	------

なお、専攻医登録評価システムの登録内容と適切な経験と知識の修得状況は指導医によって承認される必要があります。

【専門研修 1-3 年を通じて行う現場での経験】

- ① 専攻医 2 年目以降から初診を含む外来（1 回／週以上）を通算で 6 ヶ月以上行います。
- ② 当直を経験します。

4) 臨床現場を離れた学習

①内科領域の救急、②最新のエビデンスや病態・治療法について専攻医対象のモーニングセミナー やイブニングセミナーが開催されており、それを聴講し、学習します。受講歴は登録され、充足状況が把握されます。内科系学会、JMECC（内科救急講習会）等においても学習します。

5) 自己学習

[研修カリキュラム](#)にある疾患について、内科系学会が行っているセミナーの DVD やオンデマンドの配信を用いて自己学習します。個人の経験に応じて適宜 DVD の視聴ができるよう図書館または IT 教室に設備を準備します。また、日本内科学会雑誌の MCQ やセルフトレーニング問題を解き、内科全領域の知識のアップデートの確認手段とします。週に 1 回、指導医との Weekly summary discussion を行い、その際、当該週の自己学習結果を指導医が評価し、研修手帳に記載します。

6) 大学院進学

大学院における臨床研究は臨床医としてのキャリアアップにも大いに有効であることから、臨床研究の期間も専攻医の研修期間として認められます。臨床系大学院へ進学しても専門医資格が取得できるプログラムも用意されています（項目 8 を参照）。

7) Subspecialty 研修

後述する“Subspecialty 重点コース”において、それぞれの専門医像に応じた研修を準備しています。Subspecialty 研修は 3 年間の内科研修期間の、いずれかの年度で最長 1 年間について内科研修の中で重点的に行います。大学院進学を検討する場合につきましても、こちらのコースを参考に後述の項目 8（P. 9）を参照してください。

3. 専門医の到達目標 項目 2-3) を参照 [整備基準：4, 5, 8 ～ 11]

- 1) 3 年間の専攻研修期間で、以下に示す内科専門医受験資格を完了することとします。

- ① 70 に分類された各カテゴリーのうち、最低 56 のカテゴリーから 1 例を経験すること。
 - ② 日本内科学会専攻医登録評価システムへ症例（定められた 200 件のうち、最低 160 例）を登録し、それを指導医が確認・評価すること。
 - ③ 登録された症例のうち、29 症例を病歴要約として内科専門医制度委員会へ提出し、査読委員から合格の判定をもらうこと。
 - ④ 技能・態度：内科領域全般について診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針を決定する能力、基本領域専門医としてふさわしい態度、プロフェッショナリズム、自己学習能力を修得すること。
- なお、習得すべき疾患、技能、態度については多岐にわたるため、[研修手帳](#)を参照してください。

- 2) 専門知識について [内科研修カリキュラム](#)は総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病および類縁疾患、感染症、救急の 13 領域から構成されています。福井大学病院には 6 つの内科系診療科があり、そのうち 3 つの診療科（内科学（1）領域＜血液・腫瘍内科；感染症・膠原病内科＞、内科学（2）領域＜消化器内科；脳神経内科＞、内科学（3）領域＜呼吸器内科；内分泌・代謝内科＞）が複数領域を担当し、さらに循環器内科、腎臓内科、総合診療部が設置されています。また、救急疾患は各診療科や救急部によって管理されており、福井大学病院においては内科領域全般の疾患が網羅できる体制が敷かれています。これらの診療科での研修を通じて、専門知識の習得を行ないます。さらに県内の福井県立病院（1,020 床）、福井赤十字病院（597 床）、福井県済生会病院（460 床）、公立小浜病院（456

床），市立敦賀病院（332 床）をはじめとする 25 施設，また近隣の 9 施設を加えた合計 35 施設の専門研修施設群を構築することで，より総合的な研修や地域における医療体験が可能となります。患者背景の多様性に対応するため，地域または県外病院での研修を通じて幅広い活動を推奨しています。

4. 各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得 [整備基準：13]

- 1) 朝カンファレンス・チーム回診
朝，患者申し送りを行い，チーム回診を行って指導医からフィードバックを受け，指摘された課題について学習を進めます。
- 2) 総回診：受持患者について教授をはじめとした指導医陣に報告してフィードバックを受けます。受 持以外の症例についても見識を深めます。
- 3) 症例検討会（毎週）：診断・治療困難例，臨床研究症例などについて専攻医が報告し，指導医からのフィードバック，質疑などを行います。
- 4) 診療手技セミナー（随時）：隣接する福井メディカルシミュレーションセンターで，各種シミュレーターを利用し，指導医のもと必要な手技を繰り返しトレーニングします。
- 5) C P C：死亡・剖検例，難病・稀少症例についての病理診断を検討します。
- 6) 関連診療科との合同カンファレンス：関連診療科と合同で，患者の治療方針について検討し，内科 専門医のプロフェッショナリズムについても学びます。
- 7) 抄読会・研究報告会（毎週）：受持症例等に関する論文概要を口頭説明し，意見交換を行います。研究報告会では講座で行われている研究について討論を行い，学識を深め，国際性や医師の社会的 責任について学びます。勉強会は 28 回/月，抄読会は 20 回/月開催。
- 8) Weekly summary discussion：週に 1 回，指導医と行い，その際，当該週の自己学習結果を指導医が評価し，研修手帳に記載します。
- 9) 学生・初期研修医に対する指導：病棟や外来で医学生・初期研修医を指導します。後輩を指導することは，自分の知識を整理・確認することにつながることから，当プログラムでは，専攻医の重要な取組と位置づけています。

5. 学問的姿勢 [整備基準：6，30]

患者から学ぶという姿勢を基本とし，科学的な根拠に基づいた診断，治療を行います（evidence based medicineの精神）。最新の知識，技能を常にアップデートし，生涯を通して学び続ける習慣を作ります。また，日頃の診療で得た疑問や発想を科学的に追求するため，症例報告あるいは研究発表 を奨励します。論文の作成は科学的思考や病態に対する深い洞察力を磨くために極めて重要なことであり，内外へ広く情報発信する姿勢も高く評価されます。

6. 医師に必要な，倫理性，社会性 [整備基準：7]

医師の日々の活動や役割に関わってくる基本となる能力，資質，態度を患者への診療を通して医療 現場から学びます。福井大学病院（基幹病院）において症例経験や技術習得に関して，単独で履修可能であっても，連携施設において，地域住民に密着し，病病連携や病診連携を依頼する立場を経験することにより，地域医療を実施します。そのため複数施設での研修を行うことが望ましく，全てのコースにおいてその経験を積みます。詳細は項目 8（P.9）を参照してください。地域医療を経験するため，全てのプログラムにおいて連携施設（名古屋共立病院，若狭高浜病院，越前町国民健康保険織田病院，池端病院，林病院，広瀬病院，国民健康保健池田町診療所，おおい町国民健康保険名田庄診療所，高浜町国民健康保険和田診療所，オレンジホームケアクリニック）での研修期間を設けています。専攻医，連携施設では基幹施設で研修不十分となる領域を主として研修します。入院症例だけでなく外来での基本となる能力，知識，スキル，行動の組み合わせを指します。なお，連携病院へのローテーションを行うことで，地域においては，人的資源の集中を避け，派遣先の医療レベル維持に貢献します。基幹施設，連携施設を問わず，患者への診療を通して，医療現場から学ぶ姿勢の重要性を知ることがで

きます。インフォームド・コンセントを取得する際には上級医に同伴し、接遇態度、患者への説明、予備知識の重要性などについて学習します。医療チームの重要な一員としての責務（患者の診療、カルテ記載、病状説明など）を果たし、リーダーシップをとれる能力を獲得できるようにします。医療安全と院内感染症対策を十分に理解するため、年に2回以上の医療安全講習会、感染対策講習会に出席します。出席回数は常時登録され、年度末近くになると受講履歴が個人にフィードバックされます。

7. 研修施設群による研修プログラムおよび地域医療についての考え方 [整備基準:]

25, 26, 28, 29]

福井大学病院（基幹施設）において症例経験や技術習得に関して、単独で履修可能であっても、地域医療を実施するため、複数施設での研修を行うことが望ましく、全てのコースにおいてその経験を求めます。（詳細は項目10と11を参照のこと）地域医療を経験するため、全てのプログラムにおいて県内外の26施設、また近隣の9施設を加えた合計35施設での研修期間を設けています。連携病院へのローテーションを行うことで、人的資源の集中を避け、派遣先の医療レベル維持にも貢献できます。連携施設では基幹施設で研修不十分となる領域を主として研修します。入院症例だけでなく外来での経験を積み、施設内で開催されるセミナーへ参加します。地域における指導の質および評価の正確さを担保するため、常にメールなどを通じて研修センターと連絡ができる環境を整備し、月に1回、指定日に基幹病院を訪れ、指導医と面談し、プログラムの進捗状況を報告します。

8. 年次毎の研修計画 [整備基準: 16, 25, 31]

本プログラムでは専攻医が抱く専門医像や将来の希望に合わせて以下の2つのコース、①内科基本コース、②Subspecialty重点コース、を準備しています。コース選択後も条件を満たせば他のコースへの移行も認められます。

Subspecialtyが未決定、または高度な総合内科専門医を目指す場合は内科基本コースを選択します。

専攻医は各内科学部門ではなく、福井大学臨床教育研修センターに所属し、3年間で各内科や内科臨床に関連ある救急部門などを4ヵ月毎にローテートします。将来のSubspecialtyが決定している専攻医は各科重点コースを選択し、各科を原則として2ヵ月以上の期間毎にローテーションします。いずれのコースを選択しても滞りなく内科専門医受験資格を得られる様に工夫されており、専攻医は卒後5-6年で内科専門医、その後Subspecialty領域の専門医取得ができます。

① 内科基本コース（P. 22 参照）

内科（Generality）専門医は勿論のこと、将来、内科指導医や高度なGeneralistを目指す方も含まれます。将来のSubspecialtyが未定な場合に選択することもあり得ます。内科基本コースは内科の領域を偏りなく学ぶことを目的としたコースであり、専攻医研修期間の3年間に於いて内科領域を担当する全ての科をローテーションします。原則として4ヵ月を1単位として、1年間に3科、3年間で延べ9科を基幹施設でローテーションします。3年目は地域医療の経験と症例数が充足していない領域を重点的に連携施設で研修します。研修する連携施設の選定は専攻医と面談の上、プログラム統括責任者が決定します。

② Subspecialty 重点コース（P. 22 参照）

希望するSubspecialty領域を重点的に研修するコースです。研修開始直後の4ヵ月間は希望するSubspecialty領域にて初期トレーニングを行います。この期間、専攻医は将来希望する内科において理想的医師像とする指導医や上級医師から、内科医としての基本姿勢のみならず、目指す領域での知識、技術を学習することにより、内科専門医取得へのMotivationを強化することができます。その後、2ヵ月間を基本として他科（場合によっては連携施設での他科研修含む）をローテーションします。研修3年目には、連携施設における当該Subspecialty科において内科研修を継続してSubspecialty領域を重点的に研修するとともに、充足していない症例を経験します。研修する連携施設の選定は専攻医と面談の上、希望するSubspecialty領域の責任者とプログラム統括責任者が協議して決定します。なお、研修中の専攻医数や進捗状況により、初年度から連携施設での重点研修を行うことがあります。あくまでも内科専門医研修が主体であり、重点研修は最長1年間とします。このコースでは、最初の4ヶ月間をSubspecialtyの重点期間に当てていますので、連携施設でのSubspecialty重点期間が残る8ヶ月となります。Subspecialty重点コースには最長1年間という期間制約があることをご留意ください。また、専門医資格の取得と臨床系大学院への進学を希望する場合は、本コースを選択の上、担当教授と協議して

大学院入学時期を決めて頂きます。

9. 専門研修の評価 [整備基準：17 ～ 22]

① 形成的評価（指導医の役割）

指導医およびローテーション先の上級医は専攻医の日々のカルテ記載と、専攻医が Web 版の研修手帳に登録した当該科の症例登録を経時的に評価し、症例要約の作成についても指導します。また、技術・技能についての評価も行います。年に 1 回以上、目標の達成度や各指導医・メディカルスタッフの評価に基づき、研修責任者は専攻医の研修の進行状況の把握と評価を行い、適切な助言を行います。

研修センターは指導医のサポートと評価プロセスの進捗状況についても追跡し、必要に応じて指導医へ連絡を取り、評価の遅延がないようにリマインドを適宜行います。

② 総括的评价

専攻医研修 3 年目の 3 月に研修手帳を通して経験症例、技術・技能の目標達成度について最終的な評価を行います。29 例の病歴要約の合格、所定の講習受講や研究発表なども判定要因になります。最終的には指導医による総合的評価に基づいてプログラム管理委員会によってプログラムの修了判定が行われます。この修了後に実施される内科専門医試験（毎年夏～秋頃実施）に合格して、内科専門医の資格を取得します。

③ 研修態度の評価

指導医や上級医のみでなく、メディカルスタッフ（病棟看護師長、臨床検査・放射線技師・臨床工学技士など）から、接点の多い職員 2～5 名程度を指名し、半期に一度評価します。評価法については別途定めるものとします。

④ ベスト専攻医賞の選考

プログラム管理委員会と総括責任者は上記の評価を基にベスト専攻医賞を専攻研修修了時に 1 名選出し、表彰状を授与します。

⑤ 専攻医による自己評価とプログラムの評価

日々の診療・教育的行事において指導医から受けたアドバイス・フィードバックに基づき、Weekly summary discussion を行い、研修上の問題点や悩み、研修の進め方、キャリア形成などについて考える機会を持ちます。毎年 3 月に現行プログラムに関するアンケート調査を行い、専攻医の満足度と改善点に関する意見を収集し、次期プログラムの改訂の参考とします。アンケート用紙は別途定めます。

10. 専門研修プログラム管理委員会 [整備基準：35 ～ 39]

1) 研修プログラム管理運営体制

本プログラムを履修する内科専攻医の研修について責任を持って管理するプログラム管理委員会を福井大学医学部に設置し、その委員長と各内科から 1 名ずつ管理委員を選任します。プログラム管理委員会の下部組織として、基幹病院および連携施設に専攻医の研修を管理する研修委員会を置き、委員長が統括します。

2) 専攻医外来対策委員会

外来トレーニングとしてふさわしい症例（主に初診）を経験するために専攻医外来対策委員会を組織し、外来症例割当システムを構築します。未経験疾患患者の外来予定が研修センターから連絡がきたら、スケジュール調整の上、外来にて診療します。専攻医は外来担当医の指導の下、当該症例の外来主治医となり、一定期間外来診療を担当し、研修を進めます。

11. 専攻医の就業環境（労務管理） [整備基準：40]

専攻医の勤務時間、休暇、当直、給与等の勤務条件に関しては、専攻医の就業環境を整えることを重視します。労働基準法を順守し、福井大学の「契約職員就業規則及び給与規程」に従います。専攻医の心身の健康維持の配慮については各施設の研修委員会と労働安全衛生委員会で管理します。特に精神衛生上の問題点が疑われる場合は臨床心理士によるカウンセリングを行います。専攻医は採用時に上記の労働環境、労働安全、勤務条件の

説明を受けることとなります。プログラム管理委員会では各施設における労働環境、労働安全、勤務に関して報告され、これらの事項について総括的に評価します。

※本プログラムでは基幹施設、連携施設の所属の如何に関わらず、基幹施設である福井大学病院の統一的な就業規則と給与規則で統一化していますが、このケースが標準系ということではありません。

個々の連携施設において事情は様々ですが、専攻医に配慮のある明確な諸規則を用意いたします。

12. 専門研修プログラムの改善方法 [整備基準：49 ～ 51]

3 ヶ月毎に研修プログラム管理委員会を福井大学病院にて開催し、プログラムが遅滞なく遂行されているかを全ての専攻医について評価し、問題点を明らかにします。また、各指導医と専攻医の双方からの意見を聴取して適宜プログラムに反映させます。また、研修プロセスの進捗具合や各方面からの意見を基に、プログラム管理委員会は毎年、次年度のプログラム全体を見直すこととします。専門医機構によるサイトビジット（ピアレビュー）に対しては研修管理委員会が真摯に対応し、専門医の育成プロセスの制度設計と専門医の育成が保証されているかのチェックを受け、プログラムの改善に繋がります。

13. 修了判定 [整備基準：21, 53]

日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に以下のすべてが登録され、かつ担当指導医が承認していることをプログラム管理委員会が確認して修了判定会議を行います。

- 1) 修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができる）を経験し、登録しなければなりません。
- 2) 所定の受理された 29 編の病歴要約
- 3) 所定の 2 編の学会発表または論文発表
- 4) JMECC 受講
- 5) プログラムで定める講習会受講
- 6) 指導医とメディカルスタッフによる 360 度評価の結果に基づき、医師としての適性に疑問がないこと。

14. 専攻医が専門研修プログラムの修了に向けて行うべきこと [整備基準：21, 22]

専攻医は様式(未定)を専門医認定申請年の 1 月末までにプログラム管理委員会に送付してください。プログラム管理委員会は 3 月末までに修了判定を行い、研修証明書を専攻医に送付します。その後、専攻医は日本専門医機構内科専門医委員会に専門医認定試験受験の申請を行ってください。

15. 研修プログラムの施設群 [整備基準：23 ～ 27]

福井大学病院が基幹施設となり、県内の福井県立病院（1,020 床）、福井赤十字病院（597 床）、福井県済生会病院（460 床）、公立小浜病院（456 床）、市立敦賀病院（332 床）をはじめとする 26 施設、また近隣の 9 施設を加えた合計 35 施設の専門研修施設群を構築することで、より総合的な研修や地域における医療体験が可能となります。

16. 専攻医の受入数

福井大学病院における専攻医の上限（学年分）は 28 名です。

- 1) 福井大学病院に卒後 3 年目で内科系講座に入局した後期研修医は過去 3 年間併せて 17 名で 1 学年 9 名の実績があります。
- 2) 福井大学病院には各医局に割り当てられた雇用人員数に応じて、募集定員を 一医局あたり数名の範囲で調整することは可能です。

- 3) 剖検体数は 2021 年度 12 体, 2022 年度 19 体, 2023 年度 20 体です。
- 4) 経験すべき症例数の充足について

表. 福井大学病院診療科別診療実績

2023 年度実績		入院患者実数 (人/年)	外来延患者数 (延人数/年)
内科学 (1)	血液・腫瘍内科	560	7,293
	感染症・膠原病内科	30	2,972
内科学 (2)	消化器内科	1,295	13,927
	脳神経内科	318	6,369
内科学 (3)	呼吸器内科	802	8,903
	内分泌・代謝内科	212	9,281
循環器内科		1,344	11,208
腎臓内科		296	7,857
総合診療部		—	4,687
救急科		349	8,827

上記表の入院患者について DPC 病名を基本とした各診療科における疾患群別の入院患者数と外来患者疾患を分析したところ、全 70 疾患群すべてにおいて充足可能でした。

- 5) 専攻医 3 年目に研修する連携施設・特別連携施設には、高次機能・専門病院 4 施設、地域連携病院 26 施設および僻地における医療施設の 5 施設があり、専攻医のさまざまな希望・将来像に対応可能です。

17. Subspecialty 領域

内科専攻医になる時点で将来目指す Subspecialty 領域が決定していれば、Subspecialty 重点コースを選択することになります。内科基本コースを選択していても、条件を満たせば Subspecialty 重点コースに移行することも可能です。内科専門医研修修了後、各領域の専門医（例えば循環器専門医）を目指します。

18. 研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件 [整備基準：33]

- 1) 出産、育児によって連続して研修を休止できる期間を 6 ヶ月とし、研修期間内の調整で不足分を補うこととします。6 ヶ月以上の休止の場合は、未修了とみなし、不足分を予定修了日以降に補うこととします。また、疾病による場合も同じ扱いとします。
- 2) 研修中に居住地の移動、その他の事情により、研修開始施設での研修続行が困難になった場合は、移動先の基幹研修施設において研修を続行できます。その際、移動前と移動先の両プログラム管理委員会が協議して調整されたプログラムを摘要します。この一連の経緯は専門医機構の研修委員会の承認を受ける必要があります。

19. 専門研修指導医 [整備基準：36]

指導医は下記の基準を満たした内科専門医です。専攻医を指導し、評価を行います。

【必須要件】

1. 内科専門医を取得していること
2. 専門医取得後に臨床研究論文（症例報告含む）を発表する【first authorもしくはcorresponding author】であること。もしくは学位を有していること。
3. 厚生労働省もしくは学会主催の指導医講習会を修了していること。
4. 内科医師として十分な診療経験を有すること。

【(選択とされる要件 (下記の 1, 2 いずれかを満たすこと)]

1. CPC, CC, 学術集会（医師会含む）などへ主導的立場として関与・参加すること
 2. 日本内科学会での教育活動（病歴要約の査読, JMECC のインストラクターなど）
- ※但し, 当初は指導医の数も多く見込めないことから, すでに「総合内科専門医」を取得している方々は, そもそも「内科専門医」より高度な資格を取得しているため, 申請時に指導実績や診療実績が十分であれば, 内科指導医と認めます. また, 現行の 日本内科学会の定める指導医については, 内科系 Subspecialty 専門医資格を 1 回以上の更新歴がある者は, これまでの指導実績から, 移行期間（2025 年まで）においてのみ指導医と認めます.

20. 専門研修実績記録システム, マニュアル等 [整備基準 : 41 ~ 48]

専門研修は別添の専攻医研修マニュアルに基づいて行われます. 専攻医は日本内科学会専攻医登録評価システム (J-OSLER) に研修実績を記載し, 指導医より評価表による評価およびフィードバックを受けます.

総括的評価については, 担当指導医が日本内科学会専攻医登録評価システム (J-OSLER) を用いて症例経験と病歴要約の指導と評価および承認を行う. 内科領域の分野のローテーション研修では担当指導医が評価を行い, 基幹施設あるいは連携施設の研修委員会で検討する. その結果を年度ごとにプログラム管理委員会で検討し, 統括責任者が承認する. 担当指導医は研修内容の修了を確認し, プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が最終判定を行う.

21. 研修に対するサイトビジット（訪問調査） [整備基準 : 51]

研修プログラムに対して日本専門医機構からのサイトビジットがあります. サイトビジットにおいては研修指導体制や研修内容について調査が行われます. その評価はプログラム管理委員会に伝えられ, 必要な場合は研修プログラムの改良を行います.

22. 専攻医の採用と修了 [整備基準 : 52, 53]

1) 採用方法

福井大学内科専門研修プログラム管理委員会は, 毎年指定日から専攻医の応募を受付けます. プログラムへの応募者は, 期日までに研修プログラム責任者宛に所定の形式の『専門研修応募願書』および履歴書を提出してください. 申請書は (1) 福井大学臨床教育研修センターの website (<http://sotsugo.hosp.u-fukui.ac.jp/specialist/program>) よりダウンロード, (2) 電話で問い合わせ (0776-61-8600), (3) e-mail で問い合わせ (sotsugo@med.u-fukui.ac.jp), のいずれの方法でも入手可能です. 書類選考および面接を行い, 採否を決定して本人に文書で通知します. 応募者および選考結果については福井大学内科専門研修プログラム管理委員会において報告します.

2) 研修開始届け

研修を開始した専攻医は, 各年度の 4 月 1 日までに以下の専攻医氏名報告書を, 福井大学内科 専門研修プログラム管理委員会および, 日本専門医機構内科領域研修委員会に提出します.

- ・専攻医の氏名と医籍登録番号, 内科医学会会員番号, 専攻医の卒業年度, 専攻医の研修開始年 度 (様式未)
- ・専攻医の履歴書 (様式 15-3 号)
- ・専攻医の初期研修修了証

3) 研修の修了

全研修プログラム終了後, プログラム統括責任者が召集するプログラム管理委員会にて審査し, 研修修了の可否を判定します.

審査は書類の点検と面接試験からなります.

点検の対象となる書類は以下の通りです.

- (1) 専門研修実績記録
- (2) 「経験目標」で定める項目についての記録
- (3) 「臨床現場を離れた学習」で定める講習会出席記録 (4) 指導医による「形成的評価表」

面接試験は書類点検で問題にあった事項について行われます. 以上の審査により, 内科専門医として適格と判定された場合は, 研修修了となり, 修了証が発行 されます.

福井大学内科専攻研修マニュアル

1. 研修後の医師像と修了後に想定される勤務形態や勤務先

- 1) 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）：地域において常に患者と接し、内科慢性疾患に対して、生活指導まで視野に入れた良質な健康管理・予防医学と日常診療を実践します。地域の医院に勤務（開業）し、実地医家として地域医療に貢献します。
- 2) 内科系救急医療の専門医：病院の救急医療を担当する診療科に所属し、内科系急性・救急疾患に対してトリージを含めた適切な対応が可能な、地域での内科系救急医療を実践します。
- 3) 病院での総合内科（Generality）の専門医：病院の総合内科に所属し、内科系の全領域に広い知識・洞察力を持ち、総合的医療を実践します。
- 4) 総合内科的視点を持った subspecialist：病院で内科系 Subspecialty、例えば消化器内科や循環器内科に所属し、総合内科（Generalist）の視点から、内科系 subspecialist として診療を実践します。

2. 専門研修の期間

内科専門医は2年間の初期臨床研修後に設けられた専門研修（後期研修）3年間の研修で育成されます。

3. 研修施設群の各施設名

福井大学医学部附属病院内科専門研修施設群研修施設

	病院	所在 都道府県	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科剖検数
基幹病院	福井大学医学部附属病院	福井県	600	184	13	39	42	12
(福井県医療圏)								
連携施設	福井県立病院	福井県	1020	184	11	22	15	9
連携施設	福井赤十字病院	福井県	534	229	7	18	18	10
連携施設	福井県済生会病院	福井県	460	186	6	18	9	4
連携施設	杉田玄白記念公立小浜病院	福井県	456	81	2	4	0	2
連携施設	市立敦賀病院	福井県	332	103	5	13	2	3
連携施設	あわら病院	福井県	172	52	3	4	2	0
連携施設	福井勝山総合病院	福井県	199	70-90	4	3	1	0
連携施設	公立丹南病院	福井県	179	50	2	5	3	0
連携施設	福井厚生病院	福井県	199	70	7	4	1	1
連携施設	福井循環器病院	福井県	199	定数なし	5	6	7	1
連携施設	大滝病院	福井県	132	132	5	0	1	0
連携施設	福井総合病院・クリニック	福井県	315	108	11	10	9	10
連携施設	中村病院	福井県	206	60	5	4	2	0
連携施設	敦賀医療センター	福井県	273	55	4	5	1	0
連携施設	木村病院(あわら)	福井県	133	70	10	3	3	0
連携施設	春江病院	福井県	137	50	10	3	3	0
(近隣医療圏)								
連携施設	市立長浜病院	滋賀県	565	159	8	9	8	5
連携施設	彦根市立病院	滋賀県	438	205	9	7	10	3
連携施設	舞鶴共済病院	京都府	300	69	5	4	3	0
連携施設	大阪府済生会野江病院	大阪府	400	185	8	26	14	3
連携施設	増子記念病院	愛知県	102	定数なし	9	3	5	0
連携施設	国立循環器病研究センター病院	大阪府	527	279	11	61	53	28

連携施設	金沢医療センター	石川県	554	252	5	15	9	27
連携施設	杏林大学医学部附属病院	東京都	1055	360	13	96	58	35
連携施設	坂井市立三国病院	福井県	105	定数なし	7	4	0	0
特別連携施設	名古屋共立病院	愛知県	156	70	7	4	4	0
特別連携施設	若狭高浜病院	福井県	115	定数なし	1	0	2	0
特別連携施設	越前町国民健康保険織田病院	福井県	55	定数なし	2	1	1	0
特別連携施設	池端病院	福井県	30	30	1	0	0	0
特別連携施設	林病院	福井県	199	定数なし	7	0	0	0
特別連携施設	広瀬病院	福井県	166	定数なし	5	2	0	0
特別連携施設	国民健康保健池田町診療所	福井県	0	0	1	0	0	0
特別連携施設	おおい町国民健康保険名田庄診療所	福井県	0	0	1	1	0	0
特別連携施設	高浜町国民健康保険和田診療所	福井県	0	0	1	0	0	0
特別連携施設	オレンジホームケアクリニック	福井県	0	0	1	4	0	0
研修施設合計			10465	3392	213	402	269	179

各内科専門研修施設の内科 13 領域の研修の可能性

病 院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
福井大学医学部附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
福井県立病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
福井赤十字病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
福井県済生会病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
杉田玄白記念公立小浜病院	○	○	○	○	△	○	△	△	△	△	△	△	○
市立敦賀病院	○	○	○	○	△	○	○	○	△	○	○	○	○
あわら病院	○	×	○	×	×	×	×	○	○	×	○	×	×
福井勝山総合病院	○	○	△	△	△	△	△	△	△	○	△	△	△
公立丹南病院	×	○	△	△	△	△	○	△	○	×	△	△	○
福井厚生病院	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	○
福井循環器病院	○	△	○	△	○	×	×	×	×	△	×	△	○
大滝病院	○	○	○	△	△	△	△	△	△	△	×	△	△
福井総合病院・クリニック	△	△	△	×	△	△	△	△	△	×	×	○	○
中村病院	○	△	○	△	○	△	○	△	○	○	○	○	○
敦賀医療センター	×	△	○	×	○	○	○	○	○	×	×	○	○
木村病院あわら	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○
春江病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	△
市立長浜病院	×	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	×
彦根市民病院	○	○	○	△	○	△	○	○	△	×	△	○	○
舞鶴共済病院	○	△	○	△	△	△	△	×	×	△	×	△	○
大阪府済生会野江病院	○	○	○	○	○	×	○	○	○	×	×	×	○

増子記念病院	×	○	×	×	×	△	×	×	×	×	×	×	×
国立循環器病研究センター病院	×	×	○	○	○	○	×	×	○	×	×	×	×
金沢医療センター	○	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×
杏林大学医学部附属病院	△	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○
坂井市立三国病院	○	○	×	×	×	○	○	×	×	○	○	○	△
名古屋共立病院	○	○	○	△	○	○	○	△	○	△	○	△	△
若狭高浜病院	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○
越前町国民健康保険織田病院	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
池端病院	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
林病院	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	△	○	○
広瀬病院	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	△
国民健康保健池田町診療所	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
おい町国民健康保険名田庄診療所	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
高浜町国民健康保険和田診療所	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
オレンジホームケアクリニック	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

各研修施設での内科 13 領域における診療経験の研修可能性を 3 段階(○, △, ×)に評価しました。 <○ : 研修できる, △ : 時に経験できる, × : ほとんど経験できない>

4. プログラムに関わる委員会と委員, および指導医名

1) 研修プログラム管理運営体制

本プログラムを履修する内科専攻医の研修について責任を持って管理するプログラム管理委員会を福井大学医学部に設置し, その委員長と各内科から 1 名ずつ管理委員を選任します。プログラム管理委員会の下部組織として, 基幹病院および連携施設に専攻医の研修を管理する研修委員会を置き, 委員長が統括します。

2) 指導医一覧

別途用意します。

5. 各施設での研修内容と期間

本プログラムでは専攻医が抱く専門医像や将来の希望に合わせて以下の 2 つのコース, ①内科基本コース, ②Subspecialty 重点コース, の 2 つを準備しています。

Subspecialty が未決定, または総合内科専門医を目指す場合は内科基本コースを選択します。専攻医は各内科学部門ではなく, 福井大学臨床教育研修センターに所属し, 3 年間で各内科や内科臨床に関連ある救急部門などを 3 カ月毎にローテートします。将来の Subspecialty が決定している専攻医は各科重点コースを選択し, 各科を原則として 2 カ月以上の期間毎にローテーションします。

基幹施設である福井大学病院での研修が中心になるが, 関連施設での研修は必須であり, 原則 1 年間以上はいずれかの関連施設で研修します。連携施設では基幹病院では経験しにくい領域や地域医療の実践について学ぶことができます。

6. 主要な疾患の年間診療件数

内科専門医 [研修カリキュラム](#)に掲載されている主要な疾患については, 福井大学病院(基幹病院)の DPC 病名を基本とした各内科診療科における疾患群別の入院患者数(R 元年度)を調査し, ほぼ全ての疾患群が充足されることが解っています(10 の疾患群は外来での経験を含めるものとします)。ただし, 研修期間内に全疾患群の経験ができるように誘導する仕組みも必要であり, 初期研修時での症例をもちろん登録すること, 外来での疾患頻度が高い疾患群を診療できるシステム(外来症例割当システム)を構築することで必要な症例経験を積むことができます。

7. 年次ごとの症例経験到達目標を達成するための具体的な研修の目安

1) 内科基本コース (p. 22)

高度な総合内科 (Generality) の専門医を目指す場合や、将来の Subspecialty が未定な場合に選択します。内科基本コースは内科の領域を偏りなく学ぶことを目的としたコースであり、後期研修期間の 3 年間に於いて内科領域を担当する全ての科をローテーションします。原則として 3 カ月を 1 単位として、1 年間に 4 科、2 年間で延べ 8 科をローテーションし、3 年目は地域医療の経験と症例数が充足していない領域を重点的に連携施設で研修します。研修する連携施設の選定は専攻医と面談の上、プログラム統括責任者が決定します。

2) Subspecialty 重点コース (p. 22)

希望する Subspecialty 領域を重点的に研修するコースです。研修開始直後の 4 カ月間は希望する Subspecialty 領域にて初期トレーニングを行います。この期間、専攻医は将来希望する内科において理想的医師像とする指導医や上級医師から、内科医としての基本姿勢のみならず、目指す領域での知識、技術を学習することにより、内科専門医取得への Motivation を強化することができます。その後、2 カ月間を基本として他科をローテーションします。研修 3 年目には原則 1 年間、連携施設における当該 Subspecialty 科において内科研修を継続し、Subspecialty 領域を重点的に研修するとともに、充足していない症例を経験します。研修する連携施設の選定は専攻医と面談の上、希望する Subspecialty 領域の責任者とプログラム統括責任者が協議して決定します。なお、研修中の専攻医数や進捗状況により、初年度から連携施設での重点研修を行うことがあります。あくまでも内科専門医研修が主体であり、重点研修は最長 1 年間とします。また、専門医資格の取得と臨床系大学院への進学を希望する場合は、本コースを選択の上、担当教授と協議して大学院入学時期を決定します。

8. 自己評価と指導医評価、ならびに 360 度評価を行う時期とフィードバックの時期

1) 専攻医による自己評価とプログラムの評価

日々の診療教育的行事において指導医から受けたアドバイス・フィードバックに基づき、Weekly summary discussion を行い、研修上の問題点や悩み、研修の進め方、キャリア形成などについて考える機会を持ちます。毎年 3 月に現行プログラムに関するアンケート調査を行い、専攻医の満足度と改善点に関する意見を収集し、次期プログラムの改訂の参考とします。アンケート用紙は別途定めます。

2) 指導医による評価と 360 度評価

指導医およびローテーション先の上級医は専攻医の日々のカルテ記載と、専攻医が Web 版の研修手帳に登録した当該科の症例登録を経時的に評価し、症例要約の作成についても指導します。また、技術・技能についての評価も行います。年に 1 回以上、目標の達成度や各指導医・メディカルスタッフの評価に基づき、研修責任者は専攻医の研修の進行状況の把握と評価を行い、適切な助言を行います。毎年、指導医とメディカルスタッフによる複数の 360 度評価を行い、態度の評価が行われます。

9. プログラム修了の基準

専攻医研修 3 年目の 3 月に研修手帳を通して経験症例、技術・技能の目標達成度について最終的な評価を行います。29 例の病歴要約の合格、所定の講習受講や研究発表なども判定要因になります。最終的には指導医による総合的な評価に基づいてプログラム管理委員会によってプログラムの修了判定が行われます。

10. 専門医申請に向けての手順

日本内科学会専攻医登録評価システム (J-OSLER) を用います。同システムでは以下を web ベースで日時を含めて記録します。具体的な入力手順については内科学会 HP から“専攻研修のための手引き”をダウンロードし、参照してください。

- ・専攻医は全 70 疾患群の経験と 200 症例以上を主担当医として経験することを目標に、通算で最低 56 疾患群以上 160 症例の研修内容を登録します。指導医はその内容を評価し、合格基準に達したと判断した場合に承認を行います。
- ・指導医による専攻医の評価、メディカルスタッフによる 360 度評価、専攻医による逆評価を入力して記録します。
- ・全 29 症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録し、専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボード (仮称) によるピアレビューを受け、指摘事項に基づいた改訂をアクセプトされるまでシステム上で行います。
- ・専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステム上に登録します。
- ・専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等 (例: CPC, 地域連携カンファレンス, 医

療倫理・医療安全・感染対策講習会）の出席をシステム上に登録します。

11. プログラムにおける待遇

専攻医の勤務時間、休暇、当直、給与等の勤務条件に関しては、労働基準法を順守し、福井大学の契約職員就業規則及び給与規程に従います。専攻医の心身の健康維持の配慮については各施設の研修委員会と労働安全衛生委員会で管理します。特に精神衛生上の問題点が疑われる場合は臨床心理士によるカウンセリングを行います。専攻医は採用時に上記の労働環境、労働安全、勤務条件の説明を受けます。プログラム管理委員会では各施設における労働環境、労働安全、勤務に関して報告され、これらの事項について総括的に評価します。

12. プログラムの特色

本プログラムでは専攻医が抱く専門医像や将来の希望に合わせて以下の2つのコース、①内科 基本コース、②Subspecialty 重点コース、を準備していることが最大の特徴です。コース選択後も条件を満たせば他のコースへの移行も認められます。また、外来トレーニングとしてふさわしい症例（主に 初診）を経験するために外来症例割当システムを構築し、専攻医は外来担当医の指導の下、当該症例の外来主治医となり、一定期間外来診療を担当し、研修を進めることができます。

13. 継続した Subspecialty 領域の研修の可否

内科学における 13 の Subspecialty 領域を順次研修します。基本領域の到達基準を満たすことができる場合には、専攻医の希望や研修の環境に応じて、各 Subspecialty 領域に重点を置いた専門研修を行うことがあります（Subspecialty 重点コース参照）。本プログラム終了後はそれぞれの医師が研修を通じて定めた進路に進むために適切なアドバイスやサポートを行います。

14. 逆評価の方法とプログラム改良姿勢

毎年3月に現行プログラムに関するアンケート調査を行い、専攻医の満足度と改善点に関する意見を収集し、次期プログラムの改訂の参考とします。アンケート用紙は別途定めます。

15. 研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難な場合は、日本専門医機構内科領域研修委員会に相談します。

福井大学内科専門研修プログラム

指導医マニュアル

1) 専攻医研修ガイドの記載内容に対応したプログラムにおいて期待される指導医の役割

- 1 人の担当指導医（メンター）に専攻医 1 人が福井大学病院内科専門研修プログラム委員会により決定されます。
- 担当指導医は、専攻医が web にて日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録するので、その履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。
- 担当指導医は、専攻医がそれぞれの年次で登録した疾患群、症例の内容について、都度、評価・承認します。
- 担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り、研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録の評価や臨床教育研修センターからの報告などにより研修の進捗状況を把握します。専攻医は Subspecialty の上級医と面談し、専攻医が経験すべき症例について報告・相談します。担当指導医と Subspecialty の上級医は、専攻医が充足していないカテゴリ内の疾患を可能な範囲で経験できるよう、主担当医の割り振りを調整します。
- 担当指導医は Subspecialty 上級医と協議し、知識、技能の評価を行います。
- 担当指導医は専攻医が専門研修（専攻医）2 年修了時まで合計 29 症例の病歴要約を作成すること を促進し、内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し、形式的な指導を行います。

2) 専門研修プログラムにおける年次到達目標と評価方法、ならびにフィードバックの方法と時期

- 年次到達目標は、内科専門研修において求められる「疾患群」「症例数」「病歴提出数」に示すとおりです。
- 担当指導医は、臨床教育研修センターと協働して、3 ヶ月ごとに研修手帳 Web 版にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し、専攻医による研修手帳 Web 版への記入を促します。また、各カテゴリ内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
- 担当指導医は、臨床教育研修センターと協働して、6 ヶ月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し、専攻医による病歴要約の作成を促します。また、各カテゴリ内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
- 担当指導医は、臨床教育研修センターと協働して、6 ヶ月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します。
- 担当指導医は、臨床教育研修センターと協働して、毎年 8 月と 2 月とに自己評価と指導医評価、ならびに 360 度評価を行います。評価終了後、1 ヶ月以内に担当指導医は専攻医にフィードバックを行い、形式的に指導します。2 回目以降は、以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて、担当指導医はフィードバックを形式的に行って、改善を促します。

3) 個別の症例経験に対する評価方法と評価基準。

- 担当指導医は Subspecialty の上級医と十分なコミュニケーションを取り、研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録の評価を行います。
- 研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録に基づいて、当該患者の電子カルテの記載、退院サマリ 作成の内容などを吟味し、主担当医として適切な診療を行っている第三者が認めると判断する場合に合格とし、担当指導医が承認を行います。
- 主担当医として適切に診療を行っている認められない場合には不合格として、担当指導医は専攻医 に研修手帳 Web 版での当該症例登録の削除、修正などを指導します。

4) 日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）の利用方法

- 専攻医による症例登録と担当指導医が合格とした際に承認します。
- 担当指導医による専攻医の評価、メディカルスタッフによる 360 度評価および専攻医による逆評価などを専攻医に対する形式的フィードバックに用います。
- 専攻医が作成し、担当指導医が校閲し適切と認めた病歴要約全 29 症例を専攻医が登録したものを担当指導医が承認します。
- 専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボード（仮称）によるピアレビューを受け、指摘事項に基

づいた改訂を専攻医がアクセプトされるまでの状況を確認します。

- 専攻医が登録した学会発表や論文発表の記録、出席を求められる講習会等の記録について、各専攻医の進捗状況をリアルタイムで把握します。担当指導医と臨床教育研修センターはその進捗状況を把握して年次ごとの到達目標に達しているか否かを判断します。
- 担当指導医は、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて研修内容を評価し、修了要件を満たしているかを判断します。

5) 逆評価と日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いた指導医の指導状況把握

専攻医による日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いた無記名式逆評価の集計結果を、担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧します。集計結果に基づき、福井大学病院内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

6) 指導に難渋する専攻医の扱い

必要に応じて、臨時（毎年8月と2月とに予定の他に）で、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて専攻医自身の自己評価、担当指導医による内科専攻医評価およびメディカルスタッフによる360度評価（内科専門研修評価）を行い、その結果を基に福井大学病院内科専門研修プログラム管理委員会で協議を行い、専攻医に対して形式的に適切な対応を試みます。状況によっては、担当指導医の変更や在籍する専門研修プログラムの異動勧告などを行います。

7) プログラムならびに各施設における指導医の待遇

福井大学病院職員給与規程によります。

8) FD 講習の出席義務

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します。指導者研修（FD）の実施記録として、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用います。

9) 日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」（仮称）の活用

内科専攻医の指導にあたり、指導法の標準化のため、日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」（仮称）を熟読し、形式的に指導します。

10) 研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難な場合の相談先

日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

11) その他

特になし。

内科基本コース

卒業 1 年	2 年	3 年	4 年			5 年	
初期		後期					
(内科 6 M)		3 6 M： 均等に内科全体ローテ					
		内（1） 8 M	内（2） 8 M	内（3） 8 M	循内 4 M	腎内 4 M	救総 4 M

Subspecialty 重点コース

卒業 1 年	2 年	3 年	4 年			5 年	
初期	後期						
(内科 6 M)		3 6 M：個々に研修期間を調整					
		内（１） 4 M ≤	内（２） 4 M ≤	内（３） 4 M ≤	循内 2 M ≤	腎内 2 M ≤	救総 2 M ≤

例 1.	1 8 M < 専門研修			1 8 M > 専門研修 + (Subspecialty±大学院)		
例 2.	専門研修	専+ (S;大)	専門研修	専+ (S;大)	専門研修	(Subspecialty ±大学院)
例 3.	専門研修					Subspecialty±大学院

※ 内科基本コース, Subspecialty 重点コースともに, 研修機関は福井大学 (基幹) / 連携施設を問わな

い。ただし, 基幹施設での研修を 1 年以上, 基幹施設以外での研修も 1 年以上とする。

福井大学医学部附属病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・福井大学医学部内科専攻医として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ・ハラスメント委員会が福井大学に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 39 名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・臨床研究・医療安全・感染対策・ME 機器講習会（e-learning を含む）を定期的開催（2022 年度実績 臨床研究 2 回、医療安全 2 回、感染対策 4 回、ME 医療機器 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスについて、日本内科学会北陸地方会などの際に開催される合同カンファレンスやセミナーを積極的に利用します。 ・CPC を定期的開催（2022 年度実績 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2019 年度実績 12 回）を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2022 年度開催実績 1 回）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急のすべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2021 年度実績 9 演題）をしています。
指導責任者	石塚 全 【内科専攻医へのメッセージ】 福井大学は 1 つの附属病院を有し、福井県内の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が協力病院と連携して、質の高い内科医を育成するものです。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 39 名、日本内科学会総合内科専門医 42 名、 日本消化器病学会消化器専門医 15 名、日本肝臓学会肝臓専門医 13 名、 日本循環器学会循環器専門医 11 名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 5 名、 日本糖尿病学会糖尿病専門医 9 名、日本腎臓学会腎臓専門医 10 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 9 名、日本血液学会血液専門医 10 名、 日本神経学会神経内科専門医 12 名、日本アレルギー学会アレルギー専門医（内科）2 名、日本老年医学会老年病専門医 3 名、日本感染症学会感染症専門医 5 名、 日本リウマチ学会専門医 1 名、日本臨床腫瘍学会専門医 3 名、 日本消化器内視鏡学会専門医 14 名
外来・入院患者数	内科外来患者 7,277 名（1ヶ月平均） 内科入院患者 393 名（1ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

学会認定施設
(内科系)

日本内科学会認定医制度教育病院，日本内科学会専門医制度認定施設，
日本血液学会血液研修施設，日本臨床腫瘍学会認定研修施設，
日本感染症学会専門医制度認定研修施設，日本消化器病学会専門医制度認定施設，
日本肝臓学会専門医制度教育施設，日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設，
日本消化管学会胃腸科指導施設，日本カプセル内視鏡学会認定制度指導施設，
日本神経学会専門医制度教育施設，日本認知症学会専門医制度教育施設，
日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院，
日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設，日本糖尿病学会認定教育施設，
日本高血圧学会高血圧専門医制度認定施設，日本老年医学会認定医認定施設，
日本呼吸器学会専門医制度認定施設，日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設，
日本アレルギー学会認定教育施設，日本リウマチ学会教育施設，
日本腎臓学会専門医制度研修施設，日本透析医学会専門医制度認定施設，
日本循環器学会循環器専門医研修施設，
日本不整脈学会・日本心電学会不整脈専門医研修施設，
日本超音波医学会認定専門医研修施設，
日本心血管インターベンション治療学会研修施設，
日本不整脈学会植込型除細動器（ICD）/心臓再同期療法（CRT）専用器植込み施設，
日本がん治療認定医機構認定医制度認定研修施設，日本緩和医療学会認定研修施設，
日本救急医学会救急科専門医指定施設，日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設，
日本動脈硬化学会専門医認定教育施設

福井県立病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・福井県非常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・ハラスメント委員会が福井県庁に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 22 名在籍しています（下記）。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者です（健診センター長）、プログラム管理者（臨床研修委員会委員長、循環器内科医長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）；専門医研修プログラム準備委員会から 2016 年度中に移行予定）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センター（2016 年度予定）を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2018 年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2015 年度実績 11 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（地域連携カンファレンス；2015 年度実績 12 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2015 年度開催実績 2 回：受講者 12+9 名）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センター（2018 年度予定）が対応します。 ・特別連携施設の専門研修では、電話や週 1 回の福井県立病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2015 年度実績 11 体、2014 年度 9 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2015 年度実績 12 回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2015 年度実績 12 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2015 年度実績 3 演題）をしています。

指導責任者	荒木英雄 【内科専攻医へのメッセージ】 福井県立病院は、福井県嶺北医療圏の中心的な急性期病院であり、嶺南医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 22 名、日本内科学会総合内科専門医 15 名 日本消化器病学会消化器専門医 8 名、日本循環器学会循環器専門医 5 名、 日本糖尿病学会専門医 2 名、日本腎臓病学会専門医 2 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名、日本血液学会血液専門医 2 名、 日本神経学会神経内科専門医 1 名、日本リウマチ学会専門医 2 名、 日本感染症学会専門医 1 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 8,723 名（1ヶ月平均） 入院患者 446 名（1ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院、日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設、日本高血圧学会専門医認定施設 日本呼吸器学会認定研修施設、日本呼吸器内視鏡学会認定研修施設 日本感染症学会認定研修施設、日本血液学会研修施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本リウマチ学会教育施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会専門医制度教育関連施設 日本糖尿病学会認定教育施設

福井赤十字病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・福井赤十字病院嘱託医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課担当）があります。 ・ハラスメント相談員が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所および病児保育施設があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が 18 名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理（2022 年度実績 1 回）・医療安全（2022 年度実績 3 回）・感染対策講習会（2022 年度実績 2 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスについて、日本内科学会北陸地方会などの際に開催される合同カンファレンスやセミナーを積極的に利用します。 ・CPC を定期的に開催（2022 年度実績 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・病診、病病連携カンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に教育研修推進室が対応します。
認定基準 【整備基準 23】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、全分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2021 年度実績 4 演題）
指導責任者	吉田博之 【内科専攻医へのメッセージ】 福井赤十字病院は、一般病棟 520 床、結核病棟 10 床、感染症病床 4 床を有し、福井県福井・坂井医療圏の中心的な急性期病院の一つです。また、コモンディーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。※※福井大学医学部附属病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 18 名、日本内科学会認定総合内科専門医 18 名、 日本消化器病学会専門医 9 名、日本循環器学会専門医 4 名、日本腎臓学会専門医 5 名、 日本呼吸器学会専門医 3 名、日本血液学会専門医 1 名、日本神経学会専門医 3 名、 日本消化器内視鏡学会専門医 8 名、日本アレルギー学会（内科）1 名、 日本リウマチ学会専門医 1 名、日本糖尿病学会認定専門医 1 名、日本肝臓学会専門医 3 名、
外来・入院 患者数	外来 24,759 名（全科 1 ヶ月平均：令和 3 年度実績） 入院 1,102 名（全科 1 ヶ月平均：令和 3 年度実績）

経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、 <u>研修手帳（疾患群項目表）</u> にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術技能	<u>技術・技能評価手帳</u> にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院、日本血液学会研修施設教育施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会専門医制度認定施設、日本神経学会専門医制度教育施設、日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本糖尿病学会教育関連施設、日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設、日本リウマチ学会教育施設

福井県済生会病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・福井県済生会病院非常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事室職員担当）があります。 ・ハラスメント関連部署が労働安全委員会内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 18 名在籍しています（下記）。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（顧問）、プログラム管理者（ともに内科指導医）；にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門医研修委員会と臨床研修センターを設置しています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2021 年度実績 6 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスの施設として参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2021 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（地域連携カンファレンス 2021 年度実績 0 回、福井県内科臨床懇話会 2021 年度実績 0 回、福井リバーカンファレンス 2021 年度実績 6 回、生活習慣病連携懇話会 2021 年度実績 0 回、胸部レントゲン写真読会 2021 年度実績 10 回、N S T 勉強会 2021 年度実績 7 回）を定期的に開催し専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます（コロナ禍にて未開催あり）。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2021 年度開催 0 回：受講者 0 名）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます（コロナ禍にて未開催）。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。 ・特別連携施設（将来的には）の専門研修では、電話や週 1 回の福井県済生会病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2020 年度実績 1 体、2021 年度 4 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2021 年度実績 1 回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2021 年度実績 10 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2021 年度実績 4 演題）をしています。
指導責任者	金原秀雄 【内科専攻医へのメッセージ】 福井県済生会病院は、福井県嶺北医療圏の中心的な急性期病院であり、福井医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療に

	も貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 18 名、日本内科学会総合内科専門医 18 名 日本消化器病学会消化器専門医 10 名、日本肝臓学会専門医 7 名 日本循環器学会循環器専門医 5 名、日本内分泌学会専門医 2 名 日本糖尿病学会専門医 3 名、日本腎臓学会専門医 3 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、日本血液学会血液専門医 3 名、 日本神経学会神経内科専門医 2 名、日本老年医学会専門医 1 名 日本アレルギー学会専門医（内科）0 名、 日本リウマチ学会専門医 0 名、日本感染症学会専門医 0 名、 日本救急医学会救急科専門医 0 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 23729 名（1ヶ月平均） 入院患者 971 名（1ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本老年医学会認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会教育関連施設 日本アレルギー学会認定準教育施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本老年医学会認定施設 日本病態栄養学会認定施設 など

杉田玄白記念公立小浜病院

認定基準 【整備基準 24】1) 専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 救命救急センターを運営し、救急専門医が診療を行っています。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 常勤医師（地方公務員）として勤務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する体制が組織されています。 ・ ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、設備面だけでなく、各種休暇制度、育児休業・短時間勤務制度など制度面も整備されています。 ・ 病院の近傍（徒歩 1 分）に医師公舎と院内保育所があります。
認定基準 【整備基準 24】2) 専門研修プログラムの環境	・ 内科専攻医研修委員会を設置して施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理、医療安全、感染対策講習会を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます （実績：医療倫理 1 回(2020 年度)、医療安全 2 回、感染対策 2 回(2022 年度)） ・ 研修施設群合同カンファランスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ C P C を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2022 年度実績 2 回） ・ 地域参加型のカンファランスを定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、腎臓、循環器、消化器、内分泌および救急の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表 学会参加への旅費の補助制度があります。
指導責任者	玉 直人 【内科専攻医へのメッセージ】 小浜病院は福井県の西部にあり、一般病棟 296 床、結核 8 床、感染 2 床、療養病棟 50 床、精神科病棟 100 床を有し、地域の医療・保健・福祉を担っています。連携施設として、熱心な指導医の下、臨床医の育成を行います。
指導医数 (常勤医)	総合内科指導医 4 名、循環器専門医 1 名、腎臓専門医 1 名、消化器専門医 1 名、 内分泌専門医 1 名、救急科専門医 5 名 他
外来・入院患者数	外来患者 4,440 名（1 月平均） 入院患者 2,542 名（1 月平均） ※2022 年度実績
経験できる疾患群	地域の基幹病院であり、 <u>研修手帳（疾患群項目表）</u> にある 6 領域、37 疾患群の一般的な症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	<u>技術・技能評価手帳</u> にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、高齢化社会に対応し地域に根ざした慢性期（療養）医療、精神科（認知症）医療、病診連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会教育関連病院、日本腎臓学会認定教育施設、日本内分泌学会認定教育施設、 日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設、日本消化器病学会認定施設、 日本救急医学会認定救急科専門医指定施設 他

市立敦賀病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・市立敦賀常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務企画課職員担当）があります。 ・ハラスメントに対応する委員会が市立敦賀病院に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・病院内に保育所があり利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・総合内科専門医が3名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2021年度実績 医療倫理 2回（複数回開催）、医療安全 2回（各複数回開催）、感染対策 2回（各複数回開催））し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファランスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に開催（2020年度実績 7回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファランスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、循環器、消化器、呼吸器、腎臓、アレルギーおよび救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2020 年度実績 2 演題）
指導責任者 三田村康仁	三田村康仁 【内科専攻医へのメッセージ】 市立敦賀病院は福井県の南にあり、一般病棟 330 床、感染症病棟 2 床を有し、地域の医療・保健・福祉を担っています。福井大学医学部附属病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 10 名、日本内科学会総合内科専門医 3 名、日本呼吸器学会専門医 2 名、日本消化器病学会専門医 2 名、日本肝臓学会専門医 24 名、日本腎臓学会専門医 2 名、日本循環器学会専門医 2 名、日本アレルギー学会専門医 1 名、
外来・入院 患者数	外来患者 12,719 名（1ヶ月平均） 入院患者 7,040 名（1ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、 <u>研修手帳（疾患群項目表）</u> にある 7 領域、43 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	<u>技術・技能評価手帳</u> にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本呼吸器学会認定施設、日本肝臓学会認定施設

あわら病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ あわら病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（企画課庶務班）があります。 ・ ハラスメント相談窓口があわら病院に設置されています。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・ 総合内科専門医が 3 名在籍しています（下記）。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2021 年度実績、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファランス（2022 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファランスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、循環器、膠原病および血液の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2021 年度実績 1 演題）
指導責任者	見附 保彦 【内科専攻医へのメッセージ】 あわら病院は福井県の北部にあり、回復期 52 床、慢性期 120 床を有し、地域の医療・保健・福祉を担っています。 ※※福井大学医学部附属病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 3 名、日本内科学会総合内科専門医 3 名、 日本循環器学会専門医 1 名、日本血液学会専門医 2 名
外来・入院 患者数	外来患者 1 2 0 0 名（1ヶ月平均） 入院患者 7 6 名（1ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、 <u>研修手帳（疾患群項目表）</u> にある 5 領域、22 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	<u>技術・技能評価手帳</u> にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会、日本循環器学会、日本血液学会、日本リウマチ学会、日本プライマリケア連合学会、日本病院総合診療医学会

福井勝山総合病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度協力型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 福井勝山総合病院常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・ ハラスメントを所管する委員会が福井勝山総合病院に整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。また、各種休暇制度、育児休業・短時間勤務制度など制度面も整備されています。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・ 指導医は 5 名、総合内科専門医が 4 名在籍しています（下記）。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理、医療安全、感染対策講習会を定期的に開催（2022 年度実績、医療安全 2 回、感染対策 2 回、倫理 1 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンスに定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 基幹施設および院内で定期的に開催される CPC の受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンス（地域医師会合同勉強会 6 回など）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ プログラムに所属する全専攻医に JMECC、BLS、ACLS 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23】 3) 診療経験の環境	・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、神経、アレルギー、感染症、および救急の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・ 70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・ 専門研修に必要な剖検を実施する設備があります。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	・ 臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ・ 倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。 ・ 学会参加への旅費の補助制度があります。
指導責任者	須藤弘之 【内科専攻医へのメッセージ】 JCHO 福井勝山総合病院は福井県奥越二次医療圏唯一の公的基幹病院であり、急性期一般病棟 158 床、回復期リハビリテーション病棟 41 床を有します。福井大学医学部附属病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、地域医療に貢献できる内科専門医の育成を目指します。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 5 名、日本内科学会総合内科専門医 4 名、日本消化器病学会消化器専門医 3 名、日本肝臓学会肝臓専門医 3 名、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 3 名、日本神経学会神経内科専門医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 1 名、日本アレルギー学会アレルギー専門医 1 名、日本消化管学会胃腸科専門医 1 名、日本認知症学会認知症専門医 1 名、日本プライマリケア連合学会認定医 1 名、総合診療特任指導医 4 名。
外来・入院患者数	外来患者 10,093 名（1 ヶ月平均） 入院患者 4,840 名（1 ヶ月平均） 延人数
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、 <u>研修手帳（疾患群項目表）</u> にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	<u>技術・技能評価手帳</u> にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院，日本消化器病学会専門医制度認定施設，日本肝臓学会肝臓専門医制度関連施設，日本消化器内視鏡学会認定制度指導施設，日本消化管学会胃腸科専門医制度指導施設，

公立丹南病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・ 初期医療研修における地域医療研修施設です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 公立丹南病院常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（労働安全衛生委員会）があります。 ・ ハラスメント委員会が公立丹南病院に整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・ 総合内科専門医が 3 名在籍しています（下記）。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績 医療倫理（医局会開催時） 2 回、医療安全 2 回 感染対策 2 回 ）開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファランス（2017 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC は開催されていないが、研修施設群内での開催に、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファランスを、今後定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、呼吸器、神経、および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を、2016 年度予定しています。
指導責任者	伊藤義幸 【内科専攻医へのメッセージ】 公立丹南病院は福井県丹南地区にあり、急性期一般病棟 175 床、感染症（2 種） 4 床の合計 179 床を有し、地域の医療・保健・福祉を担っています。 ※福井大学医学部附属病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 5 名、日本内科学会総合内科専門医 3 名 日本消化器病学会消化器専門医 2 名、日本神経学会専門医 1 名、
外来・入院患者数	2020 年度、外来患者 434.2 名（1 ヶ月平均） 入院患者 99.6 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、 <u>研修手帳（疾患群項目表）</u> にある 4 領域、26 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	<u>技術・技能評価手帳</u> にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本神経学会準教育施設

福井厚生病院

認定基準 【整備基準 23】1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度協力型臨床研修病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・福井厚生病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります。 ・ハラスメント委員会が福井厚生病院に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内託児所（土曜・祝日のみ開所）があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は4名、総合内科専門医が7名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2021年度実績2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に開催（2020年度実績1回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型の市民公開講座（2020年度実績1回）を定期的に開催しています。
認定基準 【整備基準 23】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病（リウマチ）、感染症、および救急のすべての分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも35以上の疾患群）について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2020年度実績1体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2021年度実績20回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計2演題以上の学会発表（2020年度実績2演題）をしています。
指導責任者	羽場利博 【内科専攻医へのメッセージ】 福井厚生病院は福井市南東部にある急性期・回復期病院であり、近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、<u>内科専門医に加えて4名の総合診療医がそろっています。広く内科疾患に対応し、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。</u>主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医を目指します。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会総合専門医7名 日本肝臓学会専門医2名、 日本消化器病学会専門医8名、日本循環器学会専門医1名、 日本消化器内視鏡学会専門医6名、日本糖尿病学会専門医1名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 12,000名（1ヶ月平均） 入院患者 175名（1ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、<u>研修手帳（疾患群項目表）</u>にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	<u>技術・技能評価手帳</u>にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院、日本循環器学会専門医研修施設、 日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設など

福井循環器病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度協力型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・福井循環器病院常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・ハラスメント委員会が福井循環器病院に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内あるいは病院近傍に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は9名、総合内科専門医が4名在籍しています ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者プログラム管理者（ともに総合内科専門医かつ指導医）；専門医研修プログラム準備委員会から2016年度中に移行予定）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センター（2016年度予定）を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2015年度実績6回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的開催（2017年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的開催（2015年度実績1回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（病病連携、病診連携の会：2015年度実績5回、P C Iライブデモンストレーション年1回）を開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講（2015年度開催実績2回）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センター（2016年度予定）が対応します。 ・特別連携施設の専門研修では、電話や週1回の※※市民病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います
認定基準 【整備基準 23】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、呼吸器、の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検（2015年度実績3体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的開催（2015年度実績10回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的受託研究審査会を開催（2015年度実績4回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2015年度実績2演題）をしています。
指導責任者	馬淵智仁 【内科専攻医へのメッセージ】 福井循環器病院は、福井県の中心的な急性期病院であり、近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医9名、日本内科学会総合内科専門医4名、日本消化器病学会消化器専門医1名、日本循環器学会循環器専門医9名、日本高血圧学会指導医1名、ほか

外来・入院患者数	外来患者 5590 名（1 ヶ月平均） 入院患者 246 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、 <u>研修手帳（疾患群項目表）</u> にある 13 領域中，総合内科Ⅰ（一般），循環器，消化器，呼吸器，内分泌（内分泌性高血圧）代謝（糖尿病）の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	<u>技術・技能評価手帳</u> にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設， 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設， 日本集中治療医学会専門医研修施設，日本高血圧学会専門医認定施設， 日本心血管インターベンション治療学会研修施設など

福井循環器病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度協力型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・福井循環器病院常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・ハラスメント委員会が福井循環器病院に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラ ムの環境	・指導医は 6 名、総合内科専門医が 7 名在籍しています ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者プログラム管理者（ともに総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2021 年度実績 7 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2017 年度実績 1 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（病病連携、病診連携の会：2021 年度実績 7 回、P C I ライブデモンストレーション年 1 回）を開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC、BLS、ACLS を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検（2022 年度実績 1 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2021 年度実績 1 回）、随時開催しています。 ・必要時、治験管理室を設置し、受託研究審査会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2018 年度実績 1 演題）をしています。
指導責任者	高田睦子 【内科専攻医へのメッセージ】 福井循環器病院は、循環器に特化しており、当院でしか経験が難しい症例との出会いがあります。循環器外科、メディカルスタッフを交えたハートチームカンファレンスに参加し患者に最良の医療を提供する現場を経験できます。一方で、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者も多く、主担当医として循環器のみならず全身管理を行う必要があり、バランスの取れた内科専門医の育成を行います。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 6 名、日本内科学会総合内科専門医 7 名、日本消化器病学会消化器専門医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 8 名ほか
外来・入院患者数	外来患者 3684 名（1 ヶ月平均） 入院患者 199 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、 <u>研修手帳（疾患群項目表）</u> にある 13 領域中、総合内科Ⅰ（一般）、循環器、消化器、内分泌（内分泌性高血圧）代謝（糖尿病）の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	<u>技術・技能評価手帳</u> にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

学会認定施設 (内科系)	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設, 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設, 日本集中治療医学会専門医研修施設, 日本高血圧学会専門医認定施設, 日本心血管インターベンション治療学会研修施設など
-----------------	--

大滝病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・ 初期医療研修における地域医療研修施設です。 ・ 研修に必要な医局図書室とインターネット環境（Wi-Fi）があります。 ・ 大滝病院常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（事務室職員担当）があります。 ・ ハラスメント委員会が大滝病院に整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 提携保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・ 総合内科専門医 1 名、内科認定医が 3 名在籍しています（下記）。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2022 年度実績 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2022 年度実績はなし）を予定しています。
指導責任者	大瀧憲夫 【内科専攻医へのメッセージ】 大滝病院は福井県福井市の西部に位置し、一般病床と療養型病床とを合わせ持つケアミックスの病院です。地域に貢献する事を基本理念とし、命の尊さ・心の豊かさ・向学の心を提唱します。急性期医療と在宅医療を繋ぐ役割を担っています。現行の医療制度を勉強していただいた上で、急性期医療後の Post-acute のケース、在宅医療からの Sub-acute のケース、神経難病等の慢性期医療のケース、がんのみならず高齢者慢性疾患の終末期医療のケース等、各ケースがどの入院カテゴリーの対象となり、どのような医療が行われるのかを研修します。また、訪問診療も担当し高齢者医療のゴールである在宅医療の実際についても研修します。内科専門医として、必要な医療介護制度を理解し、「全身を診る医療」治す医療だけではなく「支える医療」「医療と介護の連携」について経験し、2025 年に向けて日本が舵を切った「地域包括ケアシステム」を学ぶ研修になると考えます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 0 名、日本内科学会総合内科専門医 1 名、 日本消化器病学会消化器専門医 2 名、日本肝臓学会専門医 2 名、日本救急医学会専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 2,309 名（1 ヶ月平均） 入院患者 97 名（1 ヶ月平均）
病床	132 床〈一般病棟 43 床、地域包括ケア 44 床、回復期リハビリテーション 45 床〉
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 2 領域、12 疾患群の症例を幅広く経験できます。 高齢者は複数の疾患を併せ持つため、疾患のみを診るのではなく全身を総合的に診る医療の実践が可能になります。
経験できる技術・技能	技術・技能研修手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を広く経験できます。このとき、複数の疾患を併せ持つ高齢者医療において検査・治療をどこまで行うことがその患者にとって有益かどうかという視点を常に持ちながら実施していただきます。終末期ケア、緩和ケア、認知症ケア、褥瘡ケア、廃用症候群のケア、嚥下障害を含めた栄養管理、リハビリテーションに関する技術・技能を総合的に研修することが可能です。

経験できる地域医療・診療連携	当院は医師，看護師，介護士，リハビリ療法士，薬剤師，栄養士，歯科衛生士，MSW によるスキルミクス（多職種連携）を実践しています。チーム医療における医師の役割を研修します。また法人内には在宅療養支援病院だけでなく在宅療養支援診療所，訪問看護，訪問リハビリテーション，老健，有料老人ホーム部門を有し，切れ目のない部署間連携も研修します。さらには急性期病院との連携，かかりつけ医との連携，ケアマネジャーとの連携など地域医療介護連携を重視しています。病院退院時には退院前担当者会議を開催してケアマネジャーや在宅医療との顔の見える連携を実施していただきます。定期的に地域のケアマネジャーの方々に対して地域包括ケアに対する勉強会を開催しており，グループワークや講師を経験していただきます。
学会認定施設（内科系）	日本消化器病学会関連施設

福井総合病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・ 初期臨床研修における基幹型研修指定施設です。 ・ 研修に必要な医局図書室とインターネット環境（Wi-Fi）があります。 ・ 福井総合病院常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ ハラスメント委員会が福井総合病院に整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 提携保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・ 総合内科専門医 10 名、内科認定医が 14 名在籍しています。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2022 年度実績 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンス（2023 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 基幹施設である福井大学医学部附属病院で行う CPC、もしくは院内で行なう CPC（2022 年度実績 10 回）の受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えています。 ・ 地域参加型のカンファレンス（福井地域勉強会）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付けそのための時間的余裕を与えています。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、循環器、消化器、代謝、腎臓、膠原病および神経の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2022 年度実績 3 演題）を予定しています。
指導責任者	白崎温久 【内科専攻医へのメッセージ】 福井総合病院・総合クリニックは福井県福井市の北西部に位置し、『高度先進医療』の提供と『充分な期間の入院治療』という両方を満たしていることが特色です。急性期医療と在宅医療を繋ぐ役割を担っています。現行の医療制度を勉強していただいた上で、急性期医療後の Post-acute のケース、在宅医療からの Sub-acute のケース、神経難病等の慢性期医療のケース、高齢者慢性疾患の終末期医療のケース等、各ケースがどの入院カテゴリーの対象となり、どのような医療が行われるのかを研修します。内科専門医として治す医療だけではなく、必要な医療介護制度を理解し、「全身を診る医療」、「支える医療」、「医療と介護の連携」について経験し、2025 年に向けて日本が舵を切った「地域包括ケアシステム」を学ぶ研修になると考えます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 10 名、日本内科学会総合内科専門医 10 名、 日本消化器病学会認定消化器病専門医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 5 名、 日本腎臓学会腎臓専門医 2 名、日本神経学会神経内科専門医 3 名
外来・入院患者数	外来患者 16177 名（1 ヶ月平均） 入院患者 508 名（1 ヶ月平均）
病床	315 床〈一般病棟 315 床、療養型病棟 0 床〉
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 7 領域、35 疾患群の症例を幅広く経験できます。 高齢者は複数の疾患を併せ持つため、疾患のみを診るのではなく全身を総合的に診る医療の実践が可能になります。
経験できる技術・技能	技術・技能研修手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を広く経験できます。このとき、複数の疾患を併せ持つ高齢者医療において検査・治療をどこまで行うことがその患者にとって有益かどうかという視点を常に持ちながら実施していただきます。終末期ケア、緩和ケア、認知症ケア、褥瘡ケア、廃用症候群のケア、嚥下障害を含めた栄養管理、リハビリテーションに関する技術・技能を総合的に研修することが可能です。

経験できる地域医療・診療連携	当院は医師，看護師，リハビリ療法士，薬剤師，栄養士，歯科衛生士，MSW によるスキルミクス（多職種連携）を実践しています。チーム医療における医師の役割を研修します。また急性期病院との連携，かかりつけ医との連携，ケアマネージャーとの連携など地域医療及び介護連携を重視しています。病院退院時には退院前担当者会議を開催してケアマネージャーや在宅医療との顔の見える連携を実施していただきます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会教育関連施設，日本循環器学会循環器専門医研修施設，日本消化器病学会関連施設，日本神経学会教育施設，日本リウマチ学会教育施設

中村病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度連携型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 中村病院に常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・ ハラスメント委員会が中村病院に整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・ 指導医は 4 名在籍しています（下記）。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2014 年度実績 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 基幹施設である福井大学医学部附属病院で行う CPC もしくは日本内科学会が企画する CPC の受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えています。 ・ 地域参加型のカンファレンス（神経内科研究会 2014 年度実績 10 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えています。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病（リウマチ）、感染症、および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・ 70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定しています。
指導責任者	野口善之 【内科専攻医へのメッセージ】 中村病院は福井県越前市にあり、急性期一般病棟 206 床を有し、地域の医療・保健・福祉を担っています。福井大学医学部附属病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。また専門医療のみではなく、主担当医として、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医をめざせるように教育に力をいれています。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 4 名、日本内科学会総合内科専門医 2 名、日本循環器学会循環器専門医 2 名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 1 名、日本糖尿病学会糖尿病専門医 1 名、日本神経学会神経内科専門医 2 名
外来・入院患者数	外来患者 5 0 0 0 名（1 ヶ月平均） 入院患者 2 0 0 名（1 ヶ月平均）
病床	一般病棟 199 床
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、 <u>研修手帳（疾患群項目表）</u> にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	<u>技術・技能評価手帳</u> にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内分泌学会内分泌代謝科認定施設，日本糖尿病学会認定施設， 日本循環器学会循環器専門医研修施設，日本消化器病学会専門医制度認定施設， 日本神経学会専門医制度認定施設など

敦賀医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 敦賀医療センター常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・ ハラスメント委員会が明石医療センターに整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 敷地内あるいは病院近傍に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・ 総合内科専門医が1名在籍しています（下記）。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2014 年度実績 医療倫理 0 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンスについて、日本内科学会北陸地方会などの際に開催される合同カンファレンスやセミナーを積極的に利用します。 ・ CPC を定期的開催（2014 年度実績 1 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンス（2014 年度実績 病診、病病連携カンファレンス 0 回）を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器および血液の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表。
指導責任者	半田裕二 【内科専攻医へのメッセージ】 敦賀医療センターは福井県の南部にあり、一般病棟 150 床、重症身障がい児（者）病棟 120 床、結核病棟 3 床を有し、地域の医療・保健・福祉を担っています。 ※※福井大学医学部附属病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 5 名、日本内科学会総合内科専門医 1 名、 日本消化器病学会専門医 1 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、日本血液学会専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 300 名（1ヶ月平均） 入院患者 250 名（1ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、 <u>研修手帳（疾患群項目表）</u> にある 3 領域、20 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	<u>技術・技能評価手帳</u> にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	

木村病院(あわら)

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 木村病院に常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・ ハラスメント委員会が木村病院に整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 敷地は別ですが院内に保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・ 総合内科専門医が 3 名在籍しています（下記）。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2019 年度実績 8 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンス（2020 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 基幹施設である福井大学医学部附属病院で行う CPC（2018 年度実績 5 回）、もしくは日本内科学会が企画する CPC の受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えています。 ・ 地域参加型のカンファレンス（地域連携症例検討会；2020 年度予定 2 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えています。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、感染症、および救急の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2014 年度実績 0 演題）を予定しています。
指導責任者	一二三宣秀 【内科専攻医へのメッセージ】 木村病院は福井県あわら市にあり、急性期一般病棟 133 床を有し、地域の医療・保健・福祉を担っています。福井大学医学部附属病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。また専門医療のみではなく、主担当医として、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医をめざせるように教育に力をいれています。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会総合内科専門医 3 名、日本消化器病学会消化器専門医 2 名、 日本循環器学会循環器専門医 2 名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 1 名、 日本糖尿病学会糖尿病専門医 1 名、日本腎臓学会腎臓専門医 2 名
外来・入院患者数	外来患者 80 名（1 ヶ月平均） 入院患者 60 名（1 ヶ月平均）
病床	一般病棟 70 床
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、<u>研修手帳（疾患群項目表）</u>にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	<u>技術・技能評価手帳</u>にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携，介護福祉施設との連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	なし

春江病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・ 初期医療研修における地域医療研修施設です。 ・ 研修に必要な医局図書室とインターネット環境（Wi-Fi）があります。 ・ 春江病院常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（事務室職員担当）があります。 ・ ハラスメント委員会が春江病院に整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 育児支援があります。保育料の半額を助成します。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・ 総合内科専門医 3 名在籍しています（下記）。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンスについて、日本内科学会北陸地方会などの際に開催される合同カンファレンスやセミナーを積極的に利用します。 ・ 基幹施設である福井大学医学部附属病院で行う CPC、もしくは日本内科学会が企画する CPC の受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催します。専攻医に受講を義務付けそのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、循環器、呼吸器、代謝および膠原病の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績 1 演題）を予定しています。
指導責任者	重森 一夫 【内科専攻医へのメッセージ】 春江病院は福井県坂井市に位置しています。現行の医療制度を勉強していただいた上で、急性期医療後の Post-acute のケース、在宅医療からの Sub-acute のケース、神経難病等の慢性期医療のケース、がんのみならず高齢者慢性疾患の終末期医療のケース等、各ケースがどの入院カテゴリーの対象となり、どのような医療が行われるのかを研修します。また、訪問診療も担当し高齢者医療のゴールである在宅医療の実際についても研修します。内科専門医として、必要な医療介護制度を理解し、「全身を診る医療」治す医療だけではなく「支える医療」「医療と介護の連携」について経験し、2025 年に向けて日本が舵を切った「地域包括ケアシステム」を学ぶ研修になると考えます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 3 名、日本内科学会総合内科専門医 3 名、日本循環器学会専門医 1 名 日本糖尿病学会専門医 1 名、日本呼吸器学会専門医 1 名、日本リウマチ学会専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 9,783 名（1 ヶ月平均） 入院患者 3482 名（1 ヶ月のべ）
病床	137 床〈一般病棟 60 床、地域包括ケア病棟 77 床〉
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 5 領域、28 疾患群の症例を幅広く経験できます。 高齢者は複数の疾患を併せ持つため、疾患のみを診るのではなく全身を総合的に診る医療の実践が可能になります。

経験できる技術・技能	技術・技能研修手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を広く経験できます。 このとき、複数の疾患を併せ持つ高齢者医療において検査・治療をどこまで行うことがその患者にとって有益かどうかという視点を常に持ちながら実施していただきます。終末期ケア、緩和ケア、認知症ケア、褥瘡ケア、廃用症候群のケア、嚥下障害を含めた栄養管理、リハビリテーションに関する技術・技能を総合的に研修することが可能です。
経験できる地域医療・診療連携	当院は医師、看護師、介護士、リハビリ療法士、薬剤師、栄養士、歯科衛生士、MSWによるスキルミックス（多職種連携）を実践しています。チーム医療における医師の役割を研修します。また法人内には在宅療養支援病院だけでなく在宅療養支援診療所、訪問看護、訪問リハビリテーション、老健、有料老人ホーム部門を有し、切れ目のない部署間連携も研修します。さらには急性期病院との連携、かかりつけ医との連携、ケアマネージャーとの連携など地域医療介護連携を重視しています。病院退院時には退院前担当者会議を開催してケアマネージャーや在宅医療との顔の見える連携を実施していただきます。定期的に地域のケアマネージャーの方々に対して地域包括ケアに対する勉強会を開催しており、グループワークや講師を経験していただきます。
学会認定施設 (内科系)	

市立長浜病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 市立長浜病院常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・ ハラスメント委員会が市立長浜病院に整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 敷地内あるいは病院近傍に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・ 指導医は 9 名、総合内科専門医が 8 名在籍しています（下記）。 ・ 内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者プログラム管理者（ともに総合内科専門医かつ指導医）；専門医研修プログラム準備委員会から 2016 年度中に移行予定）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・ 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センター（2016 年度予定）を設置します。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2014 年度実績 15 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2017 年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的に開催（2014 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23】 3) 診療経験の環境	・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、膠原病（リウマチ）、および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・ 70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・ 専門研修に必要な剖検（2015 年度実績 14 体、2014 年度 15 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	・ 臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ・ 倫理委員会を設置し、定期的に開催（2014 年度実績 2 回）しています。 ・ 治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2014 年度実績 2 回）しています。 ・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2014 年度実績 3 演題）をしています。
指導責任者	高島 弘行 【内科専攻医へのメッセージ】 市立長浜病院は滋賀県湖北保健医療圏域の中心的な急性期病院であり、近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 9 名、日本内科学会総合内科専門医 8 名、 日本消化器病学会消化器専門医 2 名、日本循環器学会循環器専門医 7 名、 日本糖尿病学会糖尿病専門医 2 名、日本腎臓学会腎臓専門医 2 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名、日本神経学会神経内科専門医 1 名、 日本リウマチ学会リウマチ専門医 3 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 793 名（1 日平均） 入院患者 7,559 名（年間）

経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、 <u>研修手帳（疾患群項目表）</u> にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	<u>技術・技能評価手帳</u> にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院、日本血液学会認定血液研修施設、 日本リウマチ学会教育施設、日本透析医学会専門医制度認定教育関連施設、 日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡認定施設、 日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会専門医制度認定指導施設、 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本老年医学会認定老年病専門医制度認定施設、 日本心血管インターベンション学会認定研修施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設

彦根市立病院

認定基準 【整備基準 24】1) 専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・彦根市立病院常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・敷地内に研修医専用の宿舎を完備しています ・メンタルストレスに適切に対処する部署（職員課職員担当）があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・総合内科専門医が 11 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファランスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・基幹施設と人事交流があり、お互いに強く連携を望んでおり、研修の対象となる専攻医からの要望が強い。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、呼吸器、代謝、血液、神経、腎臓、膠原病、感染症および救急の 11 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。
指導責任者	黒江彰 【内科専攻医へのメッセージ】 彦根市立病院は滋賀県湖東医療圏の基幹病院であり、がん、虚血性心疾患、脳卒中、糖尿病などの疾患について、各分野の専門医や指導医が在籍しており、予防から侵襲的治療までを幅広く、深く経験することが可能です。多職種によるチーム医療も活発に行っています。また、非常に多くの救急患者を受け入れていることも当院の特徴ですが、2016 年度からは在宅医療支援室が設置され、急性期から在宅まで切れ目のない医療を提供できることを目指しています。当院での研修により、幅広い知識とすぐれたサブスペシャリティー技能を備えた総合内科専門医になれます。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 7 名、日本内科学会総合内科専門医 11 名、 日本循環器学会専門医 5 名、日本消化器病学会専門医 3 名、 日本肝臓学会専門医 2 名、日本呼吸器学会専門医 4 名、日本呼吸器学会指導医 1 名、 日本糖尿病学会認定専門医 2 名、日本糖尿病学会指導医 2 名
外来・入院 患者数	・外来患者 350 名（1 日平均）、入院患者 170 名（1 日平均） ・救急患者数 20,000 人/年、救急車搬送件数：4,000 件（受入れ率 99.8%）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、<u>研修手帳（疾患群項目表）</u>にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。

経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。2015年に多職種連携を実践する拠点として彦根市医療福祉複合施設（くすのきセンター）が病院敷地内に設置されました。地域包括ケアを理解し多職種との協働を経験できる環境が整っています。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本消化器病学会専門医制度関連施設、日本呼吸器学会認定施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設、日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設、日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設、日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設、日本緩和医療学会認定研修施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設（連携施設）

舞鶴共済病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・舞鶴共済病院常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（衛生委員会・総務課）があります。 ・ハラスメント委員会が舞鶴共済病院に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内あるいは病院近傍に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が 4 名、総合内科専門医が 3 名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2022 年度実績 医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2023 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2022 年度実績 1 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2022 年度実績 クリニカルセミナー:3 回、公開 CPC: 1 回、など）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、循環器の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2022 年度実績 1 演題）をしています。
指導責任者	湯地雄一郎 【内科専攻医へのメッセージ】 舞鶴共済病院は京都府北部の中心的な急性期病院の一つであり、連携施設として基幹病院と連携して内科専門研修を行い、地域医療にも貢献できる専門医を教育します。自ら患者さんの主担当医として初診・急性期から回復期、退院まで継続的な診療を経験し、患者さんの社会的背景も踏まえた全人的医療を実践できる内科専門医を育てます。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 4 名、日本内科学会総合内科専門医 3 名、日本循環器学会循環器専門医 4 名
外来・入院患者数	外来患者 8,800 名（1 ヶ月平均） 入院患者 5,303 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	13 領域のうち、3 領域 35 疾患群以上の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期疾患の治療だけでなく、多岐にわたる問題を有する高齢者の総合的な診療や、回復期のリハビリ、退院調整と地域の医療・介護システムへの受け渡しなどに関わる中で、地域に根ざした医療、病診連携・病病連携などを経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本病院総合診療医学会認定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設、日本脈管学会認定研修指定施設、 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設など

大阪府済生会野江病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・済生会野江病院専攻医として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（臨床心理士 2 名在籍）があります。 ・ハラスメント委員会が院内に設置されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、宿直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 26 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者、プログラム管理者、各内科系診療科部長などで構成）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2022 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2022 年度実績 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 24/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 56 以上の疾患群）について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2022 年度 3 件、2021 年度 3 件、2020 年度 4 件、2019 年度実績 4 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験管理委員会、治験管理室を設置し、定期的に審査会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に学会発表をしています。
指導責任者	羽生泰樹（プログラム統括責任者） 【内科専攻医へのメッセージ】 大阪府済生会野江病院は大阪市東部医療圏の中心的な急性期病院であり、当院および連携施設での研修により、内科専門医として必要十分な症例の経験が可能です。内科学会専門医受験に必要な研修内容を確保したうえで、subspeciality 等、将来の進路や個人の希望を考慮したフレキシブルなプログラムとなっています。内科系 subspecialist、内科系救急医療の専門医、病院における generalist、地域のかかりつけ医等、様々な進路が考えられますが、それらの進路へのスムーズな移行に配慮するとともに、いずれにも求められる患者本位の全人的医療を実践する基礎となる研修を意図しています。多くの専攻医の皆さんと一緒に、楽しく学べることを楽しみにしています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 26 名、日本内科学会総合内科専門医 14 名 日本消化器病学会消化器病専門医 5 名、日本肝臓学会肝臓専門医 1 名、日本循環器学会循環器

	専門医 6 名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 2 名、日本糖尿病学会糖尿病専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名、日本血液学会血液専門医 3 名、日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本リウマチ学会リウマチ専門医 3 名、日本救急医学会救急科専門医 1 名、日本アレルギー学会専門医 1 名ほか
外来・入院患者数	内科系外来患者 7,528 名（1 ヶ月平均） 内科系入院患者 360 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本血液学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本病態栄養学会認定病態栄養専門医研修認定施設 日本高血圧学会認定施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本認知症学会専門医教育施設 日本呼吸器学会認定施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設 日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本病態栄養学会認定栄養管理・NST 稼働施設 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設 日本栄養療法推進協議会認定 NST 稼働施設 日本静脈経腸栄養学会栄養サポートチーム専門療養士認定教育施設 など

増子記念病院

認定基準 【整備基準 24】1) 専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・増子記念病院非常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・ハラスメント相談窓口が増子記念病院に設置されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は3名、総合内科専門医が5名在籍しています（下記）。 ・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2020年度実績4回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に開催（2021年度実績0回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・専攻医に地域参加型のカンファレンスの受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講（2021年度開催実績0回：受講者0名）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器、循環器、代謝、腎臓、アレルギー、膠原病（リウマチ）および救急の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも35以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2020年度実績0体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2019年度実績1演題）を予定しています。
指導責任者	両角國男 【内科専攻医へのメッセージ】 増子記念病院は愛知県名古屋市中村区にあり、近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数 （常勤医）	日本消化器病学会認定専門医・指導医1名、日本消化器内視鏡学会認定専門医・指導医1名、 日本肝臓学会認定専門医・指導医1名、日本静脈経腸栄養学会認定医・指導医1名、 日本病態栄養学会認定医・指導医1名、初期臨床研修医指導医1名、 日本腎臓学会認定指導医1名、日本腎臓学会腎臓専門医7名、 日本透析医学会透析専門医・指導医1名、日本透析医学会透析専門医3名、 日本内科学会総合内科専門医5名、日本神経学会専門医・指導医1名
外来・入院患者数	外来患者(外来透析除く) 3,897名（1ヶ月平均） 入院患者数 1,899名（1ヶ月平均）
病床	一般病床 102床
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、 <u>研修手帳（疾患群項目表）</u> にある13領域、70疾患群のうち35以上の疾患群を経験することができます。
経験できる技術・技能	<u>技術・技能評価手帳</u> にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本肝臓学会専門医制度認定施設、日本腎臓学会研修病院、日本透析医学会専門医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本消化器病学会専門医制度認定施設など

国立循環器病研究センター病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度協力型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 非常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室担当）があります。 ・ ハラスメント委員会が人事課に整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・ 指導医は 61 名在籍しています（下記） ・ 内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2021 年度実績各 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的に開催し（2021 年度は COVID-19 の関係で実績 0 回）、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンス（病病、病診連携カンファレンス 2021 年度実績 2 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23】 3) 診療経験の環境	・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 5 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・ 専門研修に必要な剖検を行っています。（2021 年度 28 体）
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2021 年度実績 1 演題）をしています。また、内科系学会への学会発表にも積極的に取り組んでいます（2021 年度 284 演題）。
指導責任者 セージ	野口暉夫 【内科専攻医へのメッセージ】 国立循環器病研究センターは、豊能医療圏の中心的な急性期病院であり、基幹施設と連携して内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を目指しています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 61 名、日本内科学会総合内科専門医 53 名、 日本循環器学会循環器専門医 45 名、日本糖尿病学会専門医 12 名、 日本内分泌学会専門医 6 名、日本腎臓病学会専門医 3 名、 日本神経学会神経内科専門医 21 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名、 日本救急医学会救急科専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 650 名（1 日平均） 新入院患者 1,013 名（月平均） （2021 年度実績）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、<u>研修手帳（疾患群項目表）</u>にある 5 領域、24 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	<u>技術・技能評価手帳</u>にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院、日本循環器学会専門医研修施設、 日本糖尿病学会認定教育施設、日本腎臓学会研修施設、日本呼吸器学会認定施設、 日本神経学会専門医制度認定教育施設、日本超音波医学会研修施設、日本透析医学会研修施設、 日本脳卒中学会研修施設、日本高血圧学会研修施設など

金沢医療センター

認定基準

【整備基準 23】 1) 専攻医の環境

- ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
- ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
- ・ 金沢医療センター常勤医師として勤務環境が保障されています。
- ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。
- ・ ハラスメント委員会が金沢医療センターに整備されています。
- ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
- ・ 敷地内あるいは病院近傍に院内保育所があり、利用可能です。

認定基準

【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境

- ・ 指導医は 2 名、総合内科専門医が 9 名在籍しています（下記）。
- ・ 内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者プログラム管理者（ともに総合内科専門医かつ指導医）；専門医研修プログラム準備委員会から 2016 年度中に移行予定）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。
- ・ 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センター（2016 年度予定）を設置します。
- ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2014 年度実績 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・ 研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2017 年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・ CPC を定期的に開催（2014 年度実績 6 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・ 地域参加型のカンファレンス（Facelink in KMC, ISARC 症例検討会、開放病床症例検討会、糖尿病療養指導士と連携医のための研修会；2014 年度実績 45 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・ プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2015 年度開催実績 1 回：受講者 10 名）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・ 日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センター（2016 年度予定）が対応します。
- ・ 特別連携施設の専門研修では、電話や週 1 回の※※市民病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。

認定基準

【整備基準 23】 3) 診療経験の環境

- ・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病（リウマチ）、感染症、および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
- ・ 70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。
- ・ 専門研修に必要な剖検（2014 年度実績 27 体、2013 年度 18 体）を行っています。

認定基準

【整備基準 23】 4) 学術活動の環境

- ・ 臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。
- ・ 倫理委員会を設置し、定期的に開催（2014 年度実績 12 回）しています。
- ・ 治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2014 年度実績 12 回）しています。
- ・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2014 年度実績 3 演題）をしています。

指導責任者	新田永俊 【内科専攻医へのメッセージ】 金沢医療センターは、金沢市の中心街からほど近く、『高度総合医療施設』として北陸地区の基幹病院としての役割を担い、様々な疾患や病態を総合的に経験できる基幹型および協力型の臨床研修指定病院です。診療面では、国の進める政策医療の中でも特にがん、循環器（血管）を最重点分野に置き、また、24時間2交替制による小児救急体制をも完備し、地域医療機関との連携のもとに、地域がん診療連携拠点病院、地域医療支援病院として、レベルの高い医療を提供しています。単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。また専門医療のみではなく、主担当医として、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医をめざせるように教育に力をいれています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 16 名、日本内科学会総合内科専門医 10 名、 日本消化器病学会消化器専門医 5 名、日本肝臓学会肝臓専門医 5 名、 日本循環器学会循環器専門医 2 名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 1 名、 日本糖尿病学会糖尿病専門医 2 名、日本腎臓学会腎臓専門医 1 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名、日本血液学会血液専門医 1 名、 日本神経学会神経内科専門医 2 名、日本アレルギー学会アレルギー専門医（内科）2 名、 日本老年医学会老年病専門医 1 名、日本リウマチ学会リウマチ専門医 1 名、 日本感染症学会感染症専門医 0 名、日本救急医学会救急科専門医 0 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 14,730 名（1 ヶ月平均） 入院患者 14,318 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、<u>研修手帳（疾患群項目表）</u>にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・ 技能	<u>技術・技能評価手帳</u>にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本血液学会血液研修施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本神経学会専門医制度教育施設、 日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本肝臓学会専門医制度教育施設、 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設、日本消化管学会胃腸科指導施設、 日本カプセル内視鏡学会認定制度指導施設、日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設、 日本糖尿病学会認定教育施設、日本高血圧学会高血圧専門医制度認定施設、 日本老年医学会認定医認定施設、日本内科学会専門医制度認定施設、 日本呼吸器学会専門医制度認定施設、日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設、 日本アレルギー学会認定教育施設、日本腎臓学会専門医制度研修施設、 日本透析医学会専門医制度認定施設、日本循環器学会循環器専門医研修施設、 日本不整脈学会・日本心電学会不整脈専門医研修施設、日本超音波医学会認定専門医研修施設、 日本心血管インターベンション治療学会研修施設、 日本不整脈学会植込型除細動器（ICD）/心臓再同期療法（CRT）専用器植込み施設、 日本内科学会認定医制度教育病院など

杏林大学医学部附属病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 杏林大学病院専攻医として勤務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ・ ハラスメント委員会が大学に整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 施設近隣に当院と提携している保育所があり、病児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・ 指導医が 96 名在籍しています（2020 年 3 月）。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に複数回開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンス（2020 年度開催予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的に開催（2018 年度実績 6 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ JMECC 受講（杏林大学医学部附属病院で開催実績：2020 年度 3 月末日に開催予定）プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、高齢医学、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・ 専門研修に必要な剖検（2017 年度実績 45 体、2018 年度 35 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・ 国内では、地方会や総会で、積極的に学会発表をしています。また海外の学会でも、学会発表を行います。
指導責任者	久松理一 【内科専攻医へのメッセージ】 昭和 45 年 8 月に設置した杏林大学医学部附属病院は、東京西部・三多摩地区の大学病院として高度な医療のセンター的役割を果たしており、平成 6 年 4 月に厚生省から特定機能病院として承認されています。高度救命救急センター（3 次救急医療）、総合周産期母子医療センター、がんセンター、脳卒中センター、透析センター、もの忘れセンター等に加え、救急初期診療チームが 1・2 次救急に 2 4 時間対応チームとして活動しています。東京都三鷹市に位置する基幹施設として、東京都西部医療圏（多摩、武蔵野）・近隣医療圏にある連携施設と協力し内科専門研修を経て東京都西部医療圏の医療事情を理解し、地域の実情に合わせた実践的な医療も見えるように訓練します。さらに内科専門医としての基本的臨床能力獲得後はより高度な総合内科の Generality を獲得する場合や内科領域 Subspecialty 専門医への道を歩む場合を想定して、複数のコース別に研修をおこなって内科専門医の育成を行います。

指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 96 名, 日本内科学会総合内科専門医 58 名, 日本消化器病学会消化器専門医 9 名, 日本循環器学会循環器専門医 23 名, 日本内分泌学会専門医 11 名, 日本糖尿病学会専門医 7 名, 日本腎臓病学会専門医 12 名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医 10 名, 日本血液学会血液専門医 4 名, 日本神経学会神経内科専門医 9 名, 日本リウマチ学会専門医 8 名, 日本透析学会専門医 10 名, 日本脳卒中学会認定脳卒中専門医 5 名, 日本不整脈学会不整脈専門医 8 名, 日本消化器内視鏡学会専門医 14 名, 日本老年医学会専門医 9 名, 日本臨床腫瘍学会暫定指導医 1 名ほか
外来・入院患者数	内科外来延べ患者 15,617 名 (1 カ月平均) 内科入院患者実数 9,140 名 (1 カ月平均)
経験できる疾患群	研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域, 70 疾患群の症経験することができます。
経験できる技術・ 技能	専門研修施設群での 3 年間に, 豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で, 内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて, 標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します。
経験できる地域医療・診療連携	連携病院が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために, 原則として 1 年間, 立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって, 内科専門医に求められる役割を実践します。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院, 日本神経学会教育認定施設, 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設, 日本消化器内視鏡学会認定指導施設, 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設, 日本腎臓学会研修施設, 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設, 日本透析医学会認定医制度認定施設, 日本血液学会認定研修施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設, 日本神経学会専門医研修施設 日本内科学会認定専門医研修施設, 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本リウマチ学会リウマチ専門研修認定教育施設, 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医認定施設など

坂井市立三国病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	- 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 - 坂井市立三国病院常勤医師として労務環境が保障されています。 - メンタルストレスに適切に対処する部署（事務局職員担当）があります。 - ハラスメント相談窓口が坂井市立三国病院に設置されています。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	- 指導医は 4 名, 内科学会認定医 3 名, 産業医 1 名が在籍しています（下記）。 - 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 - 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2018 年度実績、医療安全 2 回（各複数回開催）、感染対策 2 回（各複数回開催））し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 - 研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 - CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 - 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、腎臓、呼吸器、アレルギー、膠原病および感染症の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（年度実績 演題）
指導責任者	飴嶋慎吾 【内科専攻医へのメッセージ】 坂井市立三国病院は福井県北部の坂井地区（坂井市、あわら市）にあり、一般病棟 62 床、地位包括ケア病床 43 床を有し、常勤、非常勤医師による一般診療に加え、救急医療、産科業務を含む子育て支援医療、透析医療なども担っている地域密着型の病院です。高齢化社会のニーズに応えるべく、超急性期病院からの患者受け入れや地域の診療所や介護施設との連携も積極的に進めています。福井大学医学部附属病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。
指導医数 （常勤医）	日本呼吸器学会指導医 1 名、日本消化器病学会消化器病専門医 2 名、 日本医師会認定産業医 1 名
外来・入院 患者数	外来患者 2, 164 名（1ヶ月平均） 入院患者 1, 524 名（1ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、 <u>研修手帳（疾患群項目表）</u> にある 5 領域、22 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	<u>技術・技能評価手帳</u> にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本呼吸器学会関連施設

名古屋共立病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・ 初期医療研修における地域医療研修施設です。 ・ 研修に必要な医局図書室とインターネット環境（LAN）があります。 ・ 名古屋共立病院非常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（事務室職員担当および産業医）があります。 ・ ハラスメント委員会（職員暴言・暴力担当窓口）が名古屋共立病院内に設置されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、仮眠室が整備されています。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンスについて、日本内科学会地方会などの際に開催される合同カンファレンスやセミナーを積極的に利用し、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 基幹施設である福井大学医学部附属病院で行うCPC、もしくは日本内科学会が企画するCPCの受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えています。 ・ 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催しており、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えています。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、循環器、消化器、腎臓の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。救急の分野については、高度ではなく、一次・二次の内科救急疾患、より一般的な疾患が中心となります。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定しています。
指導責任者	堀 浩 【内科専攻医へのメッセージ】 名古屋共立病院は愛知県名古屋医療圏の名古屋市にあり、昭和 54 年の開設で、多くの血液透析クリニックを有する偕行会グループの基幹病院です。特に透析合併症対策に力を入れております。また、地域の専門特化した高機能病院を目指しており、がんの診断・治療に力を注いでいます。どの分野においても、“最新の医療を、苦痛を少なく、そしてなるべく早く”というのを信念においています。 がん診療におきましては、PET-CT・内視鏡など最新の機器・技術で早期発見、早期診断を行います。治療が必要な場合は、内科的手術（内視鏡処置）、外科手術、定位放射線治療（ガンマナイフ・ノバルス）、化学療法と総合的な治療を行っています。ガンマナイフでは、最新のパーフェクションを導入し、身体により優しい治療を行っています。 臨床研究にも積極的に取り組み、スタッフが国内外の多くの学会で発表を行っています。 当院は大病院ではありませんが、専門特化した高度医療を今後も身近に提供したいと考えています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 4 名、日本内科学会総合内科専門医 4 名
外来・入院 患者数	外来患者 6,167 名（1 ヶ月平均） 入院患者 118 名（1 日平均）
病床	156 床〈一般病床〉
経験できる疾患群	研修手帳にある 13 領域、70 疾患群の症例については、高齢者・慢性長期療養患者の診療を通じて、広く経験することとなります。複数の疾患を併せ持つ高齢者の治療・全身管理・今後の療養方針の考え方などについて学ぶことができます。

経験できる技術・技能	内科専門医に必要な技術・技能を、地域の総合病院という枠組みのなかで、経験していただきます。健診・健診後の精査・地域の内科外来としての日常診療・必要時入院診療へ繋ぐ流れ、急性期をすぎた療養患者の機能の評価（認知機能・嚥下機能・排泄機能などの評価）。複数の疾患を併せ持つ高齢者の診療について、患者本人のみならず家族とのコミュニケーションの在り方・かかりつけ医としての診療の在り方。嚥下機能評価（嚥下造影にもとづく）および口腔機能評価（歯科医師によります）による機能に見合った食事の提供と誤嚥防止への取り組み。褥創についてのチームアプローチ。
経験できる地域医療・診療連携	入院診療については、急性期病院から急性期後に転院してくる治療・療養が必要な入院患者の診療。残存機能の評価、多職種および家族と共に今後の療養方針・療養の場の決定と、その実施にむけた調整。在宅へ復帰する患者については、地域の内科病院としての外来診療と訪問診療・往診、それを相互補完する訪問看護との連携、ケアマネージャーによるケアマネジメント（介護）と、医療との連携について。地域においては、連携している有料老人ホームにおける訪問診療と、急病時の診療連携、連携型在宅療養支援診療所群（20医療機関）の在宅療養支援病院としての入院受入患者診療。地域の他事業所ケアマネージャーとの医療・介護連携。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会教育関連病院、日本循環器学会 循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設、日本腎臓学会研修施設、 日本透析医学会認定施設、日本がん治療認定医機構認定施設

若狭高浜病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・ 初期医療研修における地域医療研修施設です。 ・ 研修に必要な医局図書室とインターネット環境（Wi-Fi）があります。 ・ 若狭高浜病院非常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（事務室職員担当および産業医）があります。 ・ ハラスメント委員会（職員暴言・暴力担当窓口）が若狭高浜病院内に設置されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2014 年度実績 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンスについて、日本内科学会地方会などの際に開催される合同カンファレンスやセミナーを積極的に利用し、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 基幹施設である福井大学医学部附属病院で行う CPC（2014 年度実績 12 回）、もしくは日本内科学会が企画する CPC の受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えています。 ・ 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催しており、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えています。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。救急の分野については、高度ではなく、一次・二次の内科救急疾患より一般的な疾患が中心となります。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境 指導責任者	J C H O 学会において計 1 演題以上の学会発表（2019 年度実績 5 演題）を予定しています。 河野幸裕 【内科専攻医へのメッセージ】 若狭高浜病院は、大飯郡約 2 万人の地域の皆さんにとって具合が悪い時やけがをした時などにまず受診する、かかりつけ医的な存在であり、救急告示病院として地域の救急医療も支えています。地域唯一の病院として予防医療、外来診療から、入院診療、在宅診療まで一貫した日常診療を担当することができ全人的な内科診療を実践することが可能です。また複数の内科疾患をもった高齢者が多く、幅広い疾患に対応できる力を養いたい方には最適な環境だと思います。 当院での研修の特徴は以下のとおりです。 ① 予防から、急性期、慢性期、在宅まで常に患者と接し全人的な内科診療の実践が可能です。 ② 一般病棟では、外来からの急性期患者の治療、医療療養病棟では、急性期を脱した患者の受け入れ、在宅医療の復帰支援を行います。 ③ 内視鏡検査の研修が可能です。（2019 年度実績 1,567 件） ④ 人工透析療法の研修が可能です。（15 床） ⑤ 福井大学医学部の地域医療推進講座の教授などが非常勤で内科専攻医の指導にあたってくれます。 ⑥ コミュニティケアセンター（平成 28 年 4 月設置）では、住民、行政、ヘルスケア関係者と協働で地域全体の健康のための活動に参加できます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 0 名、日本内科学会総合内科専門医 0 名
外来・入院 患者数	外来患者 135.1 名（1 ヶ月平均） 入院患者 78.8 名（1 日平均） 実働 90 床
病床	40 床〈地域包括ケア病棟〉、75 床〈療養型病棟〉（25 床休床中）

経験できる疾患群	研修手帳にある13領域、70疾患群の症例については、高齢者・慢性長期療養患者の診療を通じて、広く経験することとなります。複数の疾患を併せ持つ高齢者の治療・全身管理・今後の療養方針の考え方などについて学ぶことができます。
経験できる技術・技能	内科専門医に必要な技術・技能を、地域唯一の病院という枠組みのなかで、経験していただきます。健診・健診後の精査・地域の内科外来としての日常診療・必要時入院診療へ繋ぐ流れ、急性期をすぎた療養患者の機能の評価（認知機能・嚥下機能・排泄機能などの評価）。複数の疾患を併せ持つ高齢者の診療について、患者本人のみならず家族とのコミュニケーションの在り方・かかりつけ医としての診療の在り方、嚥下機能評価（嚥下造影にもとづく）および口腔機能評価（歯科医師によります）による機能に見合った食事の提供と誤嚥防止への取り組み、褥創についてのチームアプローチ。
経験できる地域医療・診療連携	入院診療については、急性期病院から急性期後に転院してくる治療・療養が必要な入院患者の診療、残存機能の評価、多職種および家族と共に今後の療養方針・療養の場の決定と、その実施にむけた調整、在宅へ復帰する患者については、地域の内科病院としての外来診療と訪問診療・往診、それを相互補完する訪問看護との連携、ケアマネージャーによるケアマネジメント（介護）と、医療との連携について、地域においては、連携している有料老人ホームにおける訪問診療と、急病時の診療連携、在宅療養支援診療所（国保和田診療所）の在宅療養支援病院としての入院受入患者診療、地域の他事業所ケアマネージャーとの医療・介護連携、地域における産業医・学校医としての役割。
学会認定施設 （内科系）	

越前町国民健康保険織田病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・ 初期医療研修における地域医療研修施設です。 ・ 研修に必要な医局図書室とインターネット環境（LAN or Wi-Fi）及び遠隔会議システムがあります。 ・ 越前町国民健康保険織田病院非常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（事務室職員担当および産業医）があります。 ・ ハラスメント問題（職員暴言・暴力等）は労働安全担当職員が窓口となり、労働安全衛生委員会で対応策検討しています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・ 指導医は1名、総合内科専門医が1名在籍しています。 ・ 臨床研修委員会が設置しており、施設内で研修する内科専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2021年度実績4回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 基幹施設である福井大学医学部附属病院で行うCPC（2021年度実績7回）、もしくは日本内科学会が企画するCPCの受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えています。 ・ 地域参加型のカンファレンス（呼吸器研究会、循環器研究会、消化器病研修会）は基幹病院が定期的に開催しており、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えています。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。救急の分野については、高度ではなく、一次・二次の内科救急疾患、より一般的な疾患が中心となります。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2020年度実績1演題）を予定しています。
指導責任者	根本 朋幸 【内科専攻医へのメッセージ】 織田病院は、越前町唯一の公的急性期医療機関です。理念は「公平公正な地域医療の実践」をきっかけ救急急性期医療から在宅医療まで実践し、在宅医療支援病院として地域医療をささえています。外来では地域の内科病院として、内科一般および専門外来の充実に努め、健診・ドックの充実に努めています。入院医療としては、急性期病床・地域包括ケア病床を有し、①急性疾患への対応 ②慢性疾患の方の急性増悪への対応 ③地域の介護施設利用者への急変対応 ④終末期緩和ケア ⑤地域包括病床におけるリハビリの提供をおこなっています。病棟では医師を含め各職種が協力してチーム医療をおこない、各医師・各職種および家族を含めたカンファレンスを実施し治療の方向性、在宅療養の準備を進め、外来・在宅担当医師・スタッフへとつないでいます。 在宅医療は、訪問診療と往診をおこなっています。併設訪問看護ステーションとの連携のもとに終末期看取りもふくめ実施しています。 地域においては、行政、地区医師会とも連携し、在宅医療推進のため年2回多職種研修会を実施し地域包括医療の充実に努めています。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 1名、日本内科学会総合内科専門医 1名、日本消化器病学会専門医 1名、日本肝臓学会専門医 1名、日本消化器内視鏡学会専門医 1名、日本医師会認定産業医 1名、日本プライマリ・ケア学会認定医 1名
外来・入院 患者数	外来患者 4,277名（1ヶ月平均） 入院患者 49名（1日平均）
病床	55床〈急性期病床27床 地域包括ケア病床28床〉

経験できる疾患群	研修手帳にある13領域、70疾患群の症例については、高齢者・慢性長期療養患者の診療を通じて、広く経験することとなります。複数の疾患を併せ持つ高齢者の治療・全身管理・今後の療養方針の考え方などについて学ぶことができます。
経験できる技術・技能	内科専門医に必要な技術・技能を、地域の総合病院という枠組みのなかで経験していただきます。健診・健診後の精査・地域の内科外来としての日常診療・必要時入院診療へ繋ぐ流れ、急性期をすぎた療養患者の機能の評価（認知機能・嚥下機能・排泄機能などの評価）、複数の疾患を併せ持つ高齢者の診療について、患者本人のみならず家族とのコミュニケーションの在り方・かかりつけ医としての診療の在り方、嚥下機能評価（嚥下造影にもとづく）および口腔機能評価（言語聴覚士によります）による機能に見合った食事の提供と誤嚥防止への取り組み、褥創についてのチームアプローチ。
経験できる地域医療・診療連携	入院診療については、急性期病院から急性期後に転院してくる治療・療養が必要な入院患者の診療・残存機能の評価、多職種および家族と共に今後の療養方針・療養の場の決定と、その実施にむけた調整、在宅へ復帰する患者については、地域の内科病院としての外来診療と訪問診療・往診、それを相互補完する訪問看護との連携、ケアマネジャーによるケアマネジメント（介護）と、医療との連携について、地域においては、連携している有料老人ホームにおける訪問診療と、急病時の診療連携、在宅療養支援病院としての入院受入患者診療、地域の他事業所ケアマネジャーとの医療・介護連携、地域における産業医・学校医としての役割。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会特別連携施設、日本消化器病学会特別関連施設、日本病院総合診療医学会認定施設、日本肝臓学会特別連携施設

池端病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・ 初期医療研修における地域医療研修施設です。 ・ 研修に必要な医局とインターネット環境（LAN & WiFi）があります。 ・ 池端病院非常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（事務室職員担当および産業医）があります。 ・ ハラスメント委員会（職員暴言・暴力担当窓口）が池端病院内に設置されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室整備されています。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2014 年度実績 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンスについて、日本内科学会地方会などの際に開催される合同カンファレンスやセミナーを積極的に利用し、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 基幹施設である福井大学医学部附属病院で行う CPC（2014 年度実績 12 回）、もしくは日本内科学会が企画する CPC の受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えています。 ・ 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催しており、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えています。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。救急の分野については、高度ではなく、一次・二次の内科救急疾患、より一般的な疾患が中心となります。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境 指導責任者	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2014 年度実績 0 演題）を予定しています。 池端幸彦 【内科専攻医へのメッセージ】 池端病院は福井県丹南医療圏の越前市にあり、昭和 34 年の創立以来、地域医療に携わる病院です。理念は「信頼され愛される病院、地域に根差したかかりつけ病院、常に考え学び向上心を持ち続ける病院を目指します。」で、地域包括ケア病床を併せ持つ在宅療養支援病院であり、在宅復帰をめざす医療療養病床です。外来では地域の内科病院として、内科一般および専門外来の充実に努め、健診・ドックの充実に努めています。医療療養病床としては、①急性期後の慢性期長期療養患者診療、②慢性期患者の在宅医療（自宅施設）復帰支援を行う一方、③外来からの急性疾患患者の入院治療在宅復帰、④在宅患者（自院の在宅患者、および連携医療機関の在宅患者）の入院治療・在宅復帰、に力を注いでいます。在宅医療は、医師 3 名による訪問診療をおこなっています。病棟・外来・訪問看護ステーション、訪問リハビリテーション、居宅介護支援事業所、通所リハビリ、通所介護などの併設居宅サービス事業所との連携のもとに実施しています。病棟では医師を含め各職種が協力してチーム医療をおこない、各医師・各職種および家族等を含めたカンファレンスを毎週実施し治療の方向性、在宅療養の準備を進め、外来在宅担当医師スタッフへとつないでいます。小規模ながら、入院・外来・訪問等での医療機能を包括的に提供する地域密着型多機能型病院として、地域包括ケアシステムを支え地域貢献することを目指しています。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 0 名、日本内科学会総合内科専門医 0 名
外来・入院 患者数	外来患者 49 名（1 日平均） 入院患者 29 名（1 日平均）
病床	療養病床 30 床<地域包括ケア病床（1）:11 床、療養病床入院医療管理(Ⅰ): 19 床>
経験できる疾患群	研修手帳にある 13 領域、70 疾患群の症例については、高齢者・慢性長期療養患者の診療を通じて、広く経験することとなります。複数の疾患を併せ持つ高齢者の治療・全身管理・今後の療養方針の考え方などについて学ぶことができます。

経験できる技術・技能	内科専門医に必要な技術・技能を、在宅療養支援病院という枠組みのなかで、経験していただきます。健診・健診後の精査・地域の内科外来としての日常診療・必要時入院診療へ繋ぐ流れ、急性期をすぎた療養患者の機能の評価（認知機能・嚥下機能・排泄機能などの評価）。複数の疾患を併せ持つ高齢者の診療について、患者本人のみならず家族とのコミュニケーションの在り方・かかりつけ医としての診療の在り方、嚥下機能評価（嚥下造影にもとづく）および口腔機能評価（言語聴覚士によります）による機能に見合った食事の提供と誤嚥防止への取り組み、褥創についてのチームアプローチ。
経験できる地域医療・診療連携	入院診療については、急性期病院から急性期後に転院してくる治療・療養が必要な入院患者の診療、残存機能の評価、多職種および家族と共に今後の療養方針・療養の場の決定と、その実施にむけた調整、在宅へ復帰する患者については、地域の内科病院としての外来診療と訪問診療・往診、それを相互補完する訪問看護との連携、ケアマネージャーによるケアマネジメント（介護）と、医療との連携について、地域においては、連携している有料老人ホームにおける訪問診療と、急病時の診療連携、連携型在宅療養支援診療所群（医療機関）の在宅療養支援病院としての入院受入患者診療、地域の他事業所ケアマネージャーとの医療・介護連携、地域における産業医・学校医としての役割。
学会認定施設（内科系）	なし

林病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・ 初期医療研修における地域医療研修施設です。 ・ 研修に必要な医局図書室とインターネット環境（Wi-Fi）があります。 ・ 常勤医師として労働環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（職員担当および産業医）があります。 ・ ハラスメント相談員が整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、医局休憩コーナー、更衣室、仮眠室、当直室、シャワー室（当直室内及び手術室）が整備されています。 ・ 病院の近傍（徒歩 1 分）に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・ 現在、内科常勤医師は 3 名で、指導医は 0 名ですが、日本内科学会認定医 2 名（1 名は全日本病院協会の臨床研修指導医）、産業医 1 名が在籍しています。 ・ 内科常勤医は、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンスについて、日本内科学会地方会などの際に開催される合同カンファレンスやセミナーを積極的に利用し、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 基幹施設である福井大学医学部附属病院で行う CPC、もしくは日本内科学会が企画する CPC の受講を専攻医に義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催しており、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症、救急で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。救急の分野については、高度ではなく、一次の救急疾患、より一般的な疾患が中心となります。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会で年間で計 1 演題以上の学会発表を予定しています。（2021 年度実績 0 演題）
指導責任者	服部泰章 【内科専攻医へのメッセージ】 林病院は、越前市中心部にある越前市役所や JR 武生駅に近接しており、丹南地域の中核病院として急性期医療の一端を担う全 199 床の中規模病院です。丹南医療圏での救急車搬送患者の約 4 割を受け入れ、年間約 1,000 例の手術を施行しています。入院患者は、年間約 62,212 人で、その内、約 1.6 割が内科入院患者です。急性期 DPC 病棟が 1 病棟、地域包括病棟が 3 病棟、回復期リハビリテーション病棟が 1 病棟あります。また人工透析、人間ドック・健康診断の予防医療、訪問看護・訪問介護・訪問リハビリテーションの在宅医療、産業医活動や学校医活動も行っています。また武生看護専門学校の教育実習病院として医療人教育にも取り組んでいます。 超高齢社会における多疾患を有する高齢者を中心に、急性期から回復期、そして在宅まで内科患者の診療を幅広く経験しつつ、急性期医療のみならず、緩和・終末期医療も通して、全人的医療が実践出来るように内科専門医の育成を行います。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 0 名、日本内科学会総合内科専門医 0 名
外来・入院 患者数	外来患者 6,607 名（1 ヶ月平均） 入院患者 5,000 名（1 ヶ月平均）
病床	199 床〈一般病床〉、0 床〈療養型病棟〉

経験できる疾患群	ここ数年の内科診療実績から見て、研修手帳にある（疾患群項目表）にある全 13 領域において、67 疾患群（全 70 疾患群）のうち、まれな疾患を除く代表的な症例を幅広く経験する事が出来ます。
経験できる技術・技能	内科専門医に必要な技術・技能を、地域の総合病院という枠組みの中で、経験して頂きます。技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く経験することが出来ます。
経験できる地域医療・診療連携	退院支援においては、医師、看護師、介護士、リハビリ療法士、薬剤師、栄養士、ソーシャルワーカー、ケアマネジャーとの他職種連携を実践し、退院後の当院の訪問看護・訪問介護・訪問リハビリテーション部門を利用した在宅医療や、かかりつけ医や地域医療介護関連施設との連携を研修して頂きます。急性期医療だけではなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病・介護福祉施設との連携を幅広く経験できます。地域の学校への内科検診も行っており経験出来ます。
学会認定施設（内科系）	日本消化器内視鏡学会指導施設（日本消化器内視鏡学会） 日本消化器病学会専門医認定施設（日本消化器病学会） NST 稼働施設（日本静脈経腸栄養学会）

広瀬病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・ 初期医療研修における地域医療研修施設です。 ・ 研修に必要な医局図書室とインターネット環境（LAN or Wi-Fi）があります。 ・ 広瀬病院非常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（事務室職員担当および産業医）があります。 ・ ハラスメント委員会（職員暴言・暴力担当窓口）が広瀬病院内に設置されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2019 年度実績 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンスについて、日本内科学会地方会などの際に開催される合同カンファレンスやセミナーを積極的に利用し、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 基幹施設である福井大学医学部附属病院で行う CPC（2014 年度実績 12 回）、もしくは日本内科学会が企画する CPC の受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えています。 ・ 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催しており、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えています。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。救急の分野については、高度ではなく、一次の救急疾患、より一般的な疾患が中心となります。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境 指導責任者	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2019 年度実績 0 演題）を予定しています。 広瀬慧 【内科専攻医へのメッセージ】 広瀬病院は福井県丹南医療圏の鯖江市にあり、昭和 36 年の創立以来、地域医療に携わる、内科をはじめとし、外科、整形外科等多岐にわたる診療科を有する複合診療科病院です。理念は「公平と信頼一同じ歩調、同じ目線で安全、安心そして安全」で、地域の住民の健康を支える病院として位置しています。病棟では、急性期の一般病床、回復期の地域包括ケア病床、慢性期の医療療養病床を有しています。外来では地域に根ざした病院として、内科一般並びに外科一般および専門外来の充実に努め、健診・ドックの充実に努めています。医療療養病床としては、①急性期後の慢性期長期療養患者診療、②慢性期患者の在宅医療（自宅施設）復帰支援を行う一方、③外来からの急性疾患患者の入院治療在宅復帰、④在宅患者（自院の在宅患者、および連携医療機関の在宅患者）の入院治療・在宅復帰、に力を注いでいます。在宅医療は、訪問診療と往診をおこなっています。病棟・外来・訪問看護ステーション・居宅介護支援事業所との連携のもとに実施しています。病棟では医師を含め各職種が協力してチーム医療をおこない、各医師・各職種および家族を含めたカンファレンスを実施し治療の方向性、在宅療養の準備を進め、外来在宅担当医師スタッフへとつないでいます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 0 名、日本内科学会総合内科専門医 0 名
外来・入院 患者数	外来患者 4,300 名（1 ヶ月平均） 入院患者 165 名（1 日平均）
病床	32 床〈一般病床〉、134 床〈療養型病棟〉
経験できる疾患群	研修手帳にある 13 領域、70 疾患群の症例については、高齢者・慢性長期療養患者の診療を通じて、広く経験することとなります。複数の疾患を併せ持つ高齢者の治療・全身管理・今後の療養方針の考え方などについて学ぶことができます。

経験できる技術・技能	内科専門医に必要な技術・技能を、地域の総合病院という枠組みのなかで、経験していただきます。健診・健診後の精査・地域の内科外来としての日常診療・必要時入院診療へ繋ぐ流れ、急性期をすぎた療養患者の機能の評価（認知機能・嚥下機能・排泄機能などの評価）。複数の疾患を併せ持つ高齢者の診療について、患者本人のみならず家族とのコミュニケーションの在り方・かかりつけ医としての診療の在り方。嚥下機能評価（言語療法士によります）および口腔機能評価（歯科医師によります）による機能に見合った食事の提供と誤嚥防止への取り組み。褥創についてのチームアプローチ。
経験できる地域医療・診療連携	入院診療については、急性期病院から急性期後に転院してくる治療・療養が必要な入院患者の診療。残存機能の評価、多職種および家族と共に今後の療養方針・療養の場の決定と、その実施にむけた調整。在宅へ復帰する患者については、地域の病院としての外来診療と訪問診療・往診、それを相互補完する訪問看護との連携、ケアマネージャーによるケアマネジメント（介護）と、医療との連携について、地域においては、急病時の診療連携、地域における産業医・学校医としての役割。
学会認定施設 (内科系)	

国民健康保険池田町診療所

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・ 初期医療研修における地域医療研修施設です。 ・ 研修に必要な医局図書室とインターネット環境（LAN or Wi-Fi）があります。 ・ 国民健康保険池田町診療所非常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（事務室職員担当および産業医）があります。 ・ ハラスメント委員会（職員暴言・暴力担当窓口）が国民健康保険池田町診療所内に設置されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2014 年度実績 6 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンスについて、日本内科学会地方会などの際に開催される合同カンファレンスやセミナーを積極的に利用し、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 基幹施設である福井大学医学部附属病院で行う CPC（2014 年度実績 12 回）、もしくは日本内科学会が企画する CPC の受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えています。 ・ 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催しており、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えています。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2014 年度実績 0 演題）を予定しています。
指導責任者	森 祐樹 【内科専攻医へのメッセージ】 国民健康保険池田町診療所は福井県丹南医療圏の今立郡にあり、地域医療に携わる、内科診療（クリニック）です。理念は「人を暖かく迎える医療－地域の健康の守り手・高齢者をささえる医療心を大切にする医療」で、在宅療養支援病院であり、在宅復帰をめざす医療療養病床です。外来では地域の内科病院として、内科一般および専門外来の充実に努め、健診・ドックの充実に努めています。医療療養病床としては、①急性期後の慢性期長期療養患者診療、②慢性期患者の在宅医療（自宅施設）復帰支援を行う一方、③外来からの急性疾患患者の入院治療在宅復帰、④在宅患者（自院の在宅患者、および連携医療機関の在宅患者）の入院治療・在宅復帰、に力を注いでいます。在宅医療は、医師 2 名による訪問診療と往診をおこなっています。病棟・外来・併設訪問看護 ステーション・併設居宅介護支援事業所との連携のもとに実施しています。病棟では医師を含め各職種が協力してチーム医療をおこない、各医師・各職種および家族を含めたカンファレンスを実施し治療の方向性、在宅療養の準備を進め、外来在宅担当医師スタッフへとつないでいます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 0 名、日本内科学会総合内科専門医 0 名
外来・入院 患者数	外来患者 943 名（1 ヶ月平均）
病床	0 床
経験できる疾患群	研修手帳にある 13 領域、70 疾患群の症例については、高齢者・慢性長期療養患者の診療を通じて、広く経験することとなります。複数の疾患を併せ持つ高齢者の治療・全身管理・今後の療養方針の考え方などについて学ぶことができます。

経験できる技術・ 技能	内科専門医に必要な技術・技能を、地域の診療所（クリニック）という枠組みのなかで、経験していただきます。健診・健診後の精査・地域の内科外来としての日常診療、複数の疾患を併せ持つ高齢者の診療について、患者本人のみならず家族とのコミュニケーションの在り方・かかりつけ医としての診療の在り方。
経験できる地域医 療・診療連携	地域の内科診療所（クリニック）としての外来診療と訪問診療・往診、それを相互補完する訪問看護との連携、ケアマネージャーによるケアマネジメント（介護）と、医療との連携について、地域においては、連携している有料老人ホームにおける訪問診療と、急病時の診療連携、地域の他事業所ケアマネージャーとの医療・介護連携、地域における産業医・学校医としての役割。
学会認定施設 （内科系）	

おい町国民健康保険名田庄診療所

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・ 初期医療研修における地域医療研修施設です。 ・ 研修に必要なインターネット環境（LAN or Wi-Fi）があります。 ・ おおい町国民健康保険名田庄診療所非常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（事務室職員担当および産業医）があります。 ・ ハラスメント委員会（職員暴言・暴力担当窓口）がおおい町役場内に設置されています。 ・ 専攻医が安心して勤務できるように、専攻医用の宿舍（2DK）が当診療所から徒歩 1 分のところにあります。															
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ Skype が使用できるので、必要に応じて、基幹施設の指導医から指導を受けることもできます。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2014 年度実績 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンスについて、日本内科学会地方会などの際に開催される合同カンファレンスやセミナーを積極的に利用し、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 基幹施設である福井大学医学部附属病院で行う CPC（2014 年度実績 12 回）、もしくは日本内科学会が企画する CPC の受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えています。 ・ 2 週に一度開催される多職種（医師・看護師・保健師・ケアマネジャー・ホームヘルパー・デイサービス職員等）によるケースカンファレンスへの参加を専攻医に義務づけます。 ・ 小浜医師会が定期的に開催する日本医師会の生涯教育講座にあたる講演会の受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます															
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。															
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2014 年度実績 0 演題）を予定しています。															
指導責任者	中村伸一 【内科専攻医へのメッセージ】 名田庄診療所は福井県嶺南医療圏のおおい町名田庄地区にあり、地域包括医療・ケアに携わる当地域唯一の診療所です。当診療所は、国保総合保健施設を併設した保健医療福祉総合施設あっとほ〜むいきいき館内にあります。 あっとほ〜むいきいき館は、おおい町名田庄地区の保健センターおよび地域包括支援センターの機能を有します。また、社会福祉協議会が運営するデイサービスセンター、居宅支援事業所、訪問介護事業所、訪問入浴事業所もあり、当地域の在宅医療・ケアを支える拠点となっています。 医師を含め各職種が協力してチーム医療をおこない、施設内や患者宅で家族を含めたカンファレンスを実施しています。 なお、当診療所は初期研修医、家庭医療後期研修医（日本プライマリ・ケア連合学会）の研修の実績があり、年間を通じてほぼ研修医がいる状況ですので、スタッフも受け入れの経験が豊富です。 <table><tr><td>2014年度</td><td>初期研修医</td><td>13名</td><td>家庭医療後期研修医</td><td>1名</td></tr><tr><td>2015年度</td><td>初期研修医</td><td>14名</td><td>家庭医療後期研修医</td><td>1名</td></tr><tr><td>2016年度</td><td>初期研修医</td><td>17名</td><td>家庭医療後期研修医</td><td>1名</td></tr></table>	2014年度	初期研修医	13名	家庭医療後期研修医	1名	2015年度	初期研修医	14名	家庭医療後期研修医	1名	2016年度	初期研修医	17名	家庭医療後期研修医	1名
2014年度	初期研修医	13名	家庭医療後期研修医	1名												
2015年度	初期研修医	14名	家庭医療後期研修医	1名												
2016年度	初期研修医	17名	家庭医療後期研修医	1名												
指導医数 （常勤医）	全国自治体病院協議会・全国国保診療施設協議会認定の地域包括医療・ケア認定医 1 名 日本専門医機構の総合診療専門医に関する委員会ワーキンググループ委員 1 名 総合診療専門領域の特任指導医を取得予定 1 名（指導医講習会の主催者側のメンバーでもある）															
外来・入院 患者数	外来患者 863 名（1 ヶ月平均） 訪問および往診患者 50 名（1 ヶ月平均）															

病床	0 床
経験できる疾患群	研修手帳にある 13 領域，70 疾患群の症例については，高齢者・慢性長期療養患者の診療を通じて，広く経験することとなります。複数の疾患を併せ持つ高齢者の治療・全身管理・今後の療養方針の考え方などについて学ぶことができます。
経験できる技術・技能	内科専門医に必要な技術・技能を，地域の診療所という枠組みのなかで，経験していただきます。健診・健診後の精査・地域の内科外来としての日常診療，複数の疾患を併せ持つ高齢者の診療について，患者本人のみならず家族とのコミュニケーションの在り方・かかりつけ医としての診療の在り方。
経験できる地域医療・診療連携	地域の内科診療所としての外来診療と訪問診療・往診，それを相互補完する訪問看護との連携，ケアマネージャーによるケアマネジメントや他の保健・福祉スタッフと医療との連携について，主に小浜病院との病診連携，地域内で連携している小規模多機能施設や障がい者施設との連携，地域における産業医・学校医としての役割。
学会認定施設（内科系）	全国自治体病院協議会・全国国保診療施設協議会認定の地域包括医療・ケア認定施設

国民健康保険高浜町和田診療所

認定基準 【整備基準 24】1) 専攻医の環境	・ 初期医療研修における地域医療研修施設です。 ・ 研修に必要な医局図書とインターネット環境（LAN）があります。 ・ 国民健康保険高浜町和田診療所非常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（事務室職員担当および産業医）があります。 ・ ハラスメント委員会（職員暴言・暴力担当窓口）が国民健康保険高浜町和田診療所内に設置されています。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2014 年度実績 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンスについて、日本内科学会地方会などの際に開催される合同カンファレンスやセミナーを積極的に利用し、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 基幹施設である福井大学医学部附属病院で行う CPC（2014 年度実績 12 回）、もしくは日本内科学会が企画する CPC の受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えています。 ・ 地域参加型のカンファレンスを定期的開催しており、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えています。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2014 年度実績 0 演題）を予定しています。
指導責任者	細川知江子 【内科専攻医へのメッセージ】 国民健康保険高浜町和田診療所は福井県嶺南医療圏にあり、福井県最西端の人口約 11000 人の高浜町東部の和田地区にあります。平成 16 年以来町営診療所として「常にあなたのそばで考えます。地域の医療ニーズに応え続けます。徹底的に質にこだわります。」を理念に地域医療に携わっています。 外来診療のなかで良好な患者医師関係を構築しながら、慢性疾患を継続的にみることや、訪問診療・往診にも携わり、患者さんの生活を医療面から応援することを学べます。また、医療だけではなく、保健、福祉とも連携しながら、心理的、社会的問題も包括して統合的なケアを実施しています。 予防接種・健診結果相談等予防医学活動、産業医活動、学校医活動、施設嘱託医、地域をより健康にしていける地域ケアの視点が求められます。また、医学生、初期研修医が多数研修する場でもありますので、医学教育にも携わります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 0 名、日本内科学会総合内科専門医 0 名
外来・入院 患者数	外来患者 660 名（1 ヶ月平均）
病床	0 床
経験できる疾患群	研修手帳にある 13 領域、70 疾患群の症例については、高齢者・慢性長期療養患者の診療を通じて、広く経験することとなります。複数の疾患を併せ持つ高齢者の治療・全身管理・今後の療養方針の考え方などについて学ぶことができます。
経験できる技術・技能	内科専門医に必要な技術・技能を、地域の診療所（クリニック）という枠組みのなかで、経験していただきます。健診・健診後の精査・地域の内科外来としての日常診療、複数の疾患を併せ持つ高齢者の診療について、患者本人のみならず家族とのコミュニケーションの在り方・かかりつけ医としての診療の在り方。

経験できる地域医療・診療連携	地域の内科診療所（クリニック）としての外来診療と訪問診療・往診，それを相互補完する訪問看護との連携，ケアマネージャーによるケアマネジメント（介護）と，医療との連携について．地域においては，連携している有料老人ホームにおける訪問診療と，急病時の診療連携．地域の他事業所ケアマネージャーとの医療・介護連携． 地域における産業医・学校医としての役割．
学会認定施設 （内科系）	

オレンジホームケアクリニック

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・ 初期医療研修における地域医療研修施設です。 ・ 研修に必要な医局図書室とインターネット環境（LAN or Wi-Fi）があります。 ・ オレンジホームケアクリニック非常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（事務室職員担当および産業医）があります。 ・ ハラスメント委員会（職員暴言・暴力担当窓口）がオレンジホームケアクリニック内に設置されています。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンスについて、日本内科学会地方会などの際に開催される合同カンファレンスやセミナーを積極的に利用し、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 基幹施設である福井大学医学部附属病院で行うCPC（2014 年度実績 12 回）、もしくは日本内科学会が企画するCPCの受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えています。 ・ 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催しており、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えています。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に積極的に参加を推奨しています。また、日本在宅医学会やプライマリケア学会等にも参加し、演題発表などをしております。
指導責任者	紅谷浩之 【内科専攻医へのメッセージ】 オレンジホームケアクリニックは、複数医師による 24 時間 365 日の診療体制を持った、福井県初の在宅医療専門クリニックです。在宅医療を通して「住み慣れた場所で幸せに自分らしく生きていく」ことをお手伝いしています。疾患だけでなく患者さん全体・その家族や環境にも配慮した診療が出来る内科医の養成を目指しています。研修では、大病院だけでは学べない様々なことを一緒に研修していきたいと思っています。また、医師だけでなく、多職種の専門職が様々な形で研修をサポートしていきます。 1) 癌患者・非がん患者の終末期・緩和医療を通して、臨死期の対応について学ぶことが出来る。 2) 急性疾患への対応や、家族への説明を含めたトリアージ、入院退院アレンジについて学ぶことが出来る。 3) 疾患についてだけでなく、病い体験・家族への対応、またコミュニケーションスキルについて学ぶことが出来る。 4) 医療・介護の充実した地域づくり・クリニックの経営品質の改善にも、企画段階から参加すること出来る。 5) サービス付高齢者住宅や施設での診療もあり、施設スタッフとの協働や管理指導を学ぶことが出来る。 6) 重度小児の成長を支えるケアや地域の安心な暮らしを支える保健室などで、医療が人生や地域を支える役割を果たすことが出来る。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会総合内科専門医 1 名、日本在宅医学会認定在宅医療専門医 1 名
外来・入院 患者数	600 名（うち訪問診療患者 320 名/月）
病床	0 床
経験できる疾患群	研修手帳にある 13 領域、70 疾患群の症例については、高齢者・慢性長期療養患者の診療を通じて、広く経験することとなります。複数の疾患を併せ持つ高齢者の治療・全身管理・今後の療養方針の考え方などについて学ぶことができます。

経験できる技術・技能	内科専門医に必要な技術・技能を，地域の診療所（クリニック）という枠組みのなかで，経験していただきます。 ・健診・健診後の精査・地域の内科外来としての日常診療。 ・複数の疾患を併せ持つ高齢者の診療について，患者本人のみならず家族とのコミュニケーションの在り方・かかりつけ医としての診療の在り方。 ・医療的ケア児における在宅療養時の診療や医療処置，小児科主治医との連携や家族サポート
経験できる地域医療・診療連携	地域の内科診療所（クリニック）としての外来診療と訪問診療・往診，それを相互補完する訪問看護との連携，ケアマネージャーによるケアマネジメント（介護）と，医療との連携について，地域においては，連携している有料老人ホームにおける訪問診療と，急病時の診療連携，地域の他事業所ケアマネージャーとの医療・介護連携，地域における産業医・学校医としての役割。
学会認定施設（内科系）	日本在宅医学会 在宅医療専門医認定施設